

事 業 報 告

1 法人本部

本年度は、第五期中期基本計画（令和3～5年度）の2年目として法人本部、高齢、障害、児童部門とも、計画に沿って事業を進めた。いまだ、新型コロナウイルスの脅威が続く中、感染防止に徹底して取り組み、事業を継続実施することができたが、利用者数は障害、高齢事業ともにコロナ前までには戻っていない。

本年度の特徴的事業としては、福祉作業所の建て替え事業に向けてプロジェクトを発足し、準備に入った。また、人材育成方針を策定し、キャリアパスを明示し、評価制度も改正した。また育児・介護休業規程を新たに改正し、子育て・介護世代をバックアップする体制を整え、職員が働きやすい職場環境となるよう整備した。

1 法人全事業でサービスを提供した人、件数（延数/年間）				(昨年度比)
障害者関係	施設サービス	115,044名	(昨年度 116,076名)	1,032名減
	相談支援等	35,165件	(昨年度 31,590件)	3,575件増
高齢者関係	施設サービス	27,290名	(昨年度 28,086名)	796名減
	相談支援等	9,666件	(昨年度 10,178件)	512件減
合計	施設サービス	142,334名	(昨年度 144,162名)	1,828名減
	支援・相談等	44,831件	(昨年度 41,768件)	3,063件増

2 理事等役員及び職員数及びボランティア数		(令和5年3月31日現在)
理事	7名	正規職員 194名 (昨年度比 2名増)
評議員	9名	嘱託職員 35名 (昨年度比 5名減)
監事	2名	<u>臨時職員 120名 (昨年度比 4名減)</u>
第三者委員	3名	職員合計 349名 (昨年度比 7名減)
ボランティア数	延 1,278名	

3 苦情解決 苦情受付件数 7件 (障害者施設7件 高齢者施設0件)

4 職員採用、異動等 (正規職員のみ)

- (1) 採用 15名 (一般支援12名 言語聴覚士1名 栄養士1名 一般事務1名)
退職 19名 (一般支援14名 看護師1名 視覚訓練士1名 言語聴覚士1名
一般事務2名) *内、定年退職者4名
- (2) 人事異動 36名 (昇任9名 配置転換等27名)

5 資格取得者数 (令和5年3月31日現在 延数)

社会福祉士	82名	介護福祉士	77名	介護支援専門員	38名
精神保健福祉士	17名	看護師・保健師	22名	保育士	27名
理学療法士	3名	作業療法士	3名	言語聴覚士	2名
公認心理士(臨床)	9名	管理栄養士・栄養士	4名	初任者(実務者)研修	28名
サービス管理責任者	55名	相談支援従事者	31名	児童発達支援管理責任者	5名
喀痰吸引、胃ろう(経管栄養)実地研修修了者		23名	強行養成研修(基礎・実践)	84名	

※本年度 当法人資格取得支援制度による合格者6名 (昨年度7名)

6 理事会の開催

- (1) 第1回理事会 令和4年5月27日(金) 対面・オンライン開催 (出席者7名/7名中)

- ① 議案第 1 号 令和 3 年度事業報告について
- ② 議案第 2 号 令和 3 年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
- ③ 議案第 3 号 令和 3 年度決算附属明細書について
- ④ 議案第 4 号 令和 3 年度財産目録について
- ⑤ 議案第 5 号 令和 3 年度社会福祉充実計画の承認について
- ⑥ 議案第 6 号 定時評議員会の招集について
- ⑦ 議案第 7 号 定款の一部改正について
- ⑧ 議案第 8 号 役員賠償責任保険の契約について
- ⑨ 報告事項 理事長の職務執行状況について/法人設立 30 周年記念事業について/その他
- (2) 第 2 回理事会 令和 4 年 10 月 26 日 (水) 対面・オンライン開催 (出席者 7 名/7 名中)
 - ① 議案第 9 号 武蔵野福祉作業所の就労移行支援の廃止及び定員の変更について
 - ② 議案第 10 号 社会福祉法人武蔵野組織等規程の一部を改正する規程について
 - ③ 議案第 11 号 社会福祉法人武蔵野育児休業等規程の全部を改正する規程について
 - ④ 報告事項 理事長の職務執行状況について/法人設立 30 周年記念事業について/その他
- (3) 第 3 回理事会 令和 5 年 3 月 14 日 (月) 対面・オンライン開催 (出席者 7 名/7 名中)
 - ① 議案第 12 号 令和 4 年度収支補正予算 (第 1 回)
 - ② 議案第 13 号 令和 5 年度事業計画
 - ③ 議案第 14 号 令和 5 年度収支予算
 - ④ 議案第 15 号 施設長人事の同意について
 - ⑤ 報告事項 理事長の職務執行状況について/武蔵野福祉作業所の建て替えについて
社会福祉法人武蔵野人材育成方針の策定について

7 評議員会の開催

- 第 1 回評議員会 令和 4 年 6 月 20 日 (月) 対面・オンライン開催 (出席者 9 名/9 名中)
 - ① 議案第 1 号 令和 3 年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ② 議案第 2 号 令和 3 年度財産目録について
 - ③ 議案第 3 号 令和 3 年度社会福祉充実計画の承認について
 - ④ 議案第 4 号 定款の一部改正について
 - ⑤ 報告事項 令和 3 年度事業報告/法人設立 30 周年記念事業について/その他

8 事業並びに会計監査 令和 4 年 5 月 16(月)～20 日(金) (安田大監事、西田恵子監事)

令和 3 年度事業及び会計監査を施設長と会計担当者からヒアリング、実地監査、書類審査等

9 各種会議・委員会・プロジェクトの開催

- (1) 経営企画会議 毎月 2 回開催 法人経営、施設運営に関する報告、検討、協議、決定等
- (2) 施設長会議 毎月 2 回開催 経営企画会議を受けて事業報告、検討、協議、決定等
- (3) 人事給与検討委員会 毎月 2 回開催 育児介護休業規程改正、人材育成方針策定、
新評価制度制定他 (中期計画進捗会議及び経営企画会議が兼ねる)
- (4) 中期計画進捗会議 毎月開催 第五期中期基本計画の進捗状況の確認及び実施推進協議等
- (5) 苦情解決第三者委員会 年 2 回開催 利用者及び家族等の苦情解決に向けての協議、対応等
- (6) 中央衛生委員会 年 4 回開催 職員の労働環境や健康、衛生に関する検討、実施
- (7) 人権擁護虐待防止及び身体拘束等適正化委員会 新発足 利用者への虐待防止の取り組み
- (8) 医療的ケア等に係る事故防止委員会 新発足 医療的ケア等の実施状況と課題、対応策等検討
- (9) 情報セキュリティー委員会 個人情報保護、漏洩防止の検討、実施(施設長会議で毎月開催)

- (10) リスクマネジメント委員会 事故事例検討、再発防止対策等の協議(施設長会議で毎月開催)
- (11) 広報委員会 法人ホームページ運営(法人・施設の最新情報を毎月更新) SNS 管理
法人広報紙「ぶれっそ」を年4回発行(第56号から59号)
法人内月報「武蔵野日記」を隔月発行(第144号から第149号)
武蔵野ポータルサイトの運用(法人内の連絡、情報、様式等の閲覧、共有)
- (12) 災害対策委員会 大規模災害等のBCP作成、訓練、協議 職員参集基準変更
- (13) 第13回実践発表会 令和4年11月26日(土) 参加者32名 エントリー数15事業所
発表4事業所(本部事務局、桜堤ケアハウス、いんくる、山びこ)
今年は30周年記念式典と合同開催 武蔵野スイングホール
- (14) 快適職場アクション2022 誰でも相談室設置(毎月第三火曜日) 相談者:精神保健福祉士(外部)
新任施設長、係長、主任面談、職場環境改善への取組等
ストレスチェックの実施(令和4年7月15日~31日)
- (15) 職員確保プロジェクト 学校等へ広報活動、各種就職セミナー参加、人材紹介会社活用他
中途採用者17名、新卒者4名、合計21名採用
令和5年度採用内定式 令和4年10月26日(火) 懇談会等
- (16) 武蔵野福祉作業所建て替えプロジェクト 新発足 建て替えに向けた検討、準備、対応他
- (17) 法人利用説明会 特別支援学校等卒業生の当法人障害者施設の利用に向けた取り組み
- (18) 研修委員会 職員研修計画、企画、検討、実施運営 随時開催

①初級職員研修(対象:1~3年目職員)

- ・採用時新人職員研修(対象:新人職員) 全4回
実施日 令和4年4月1日(金)、4日(月)他7月、8月、11月実施 全参加者15名
内 容 法人及び各事業所の概要と課題、支援・介護の基礎、各種規程等の講義
- ・半年後新人職員研修(対象:新人職員) 全2回 参加者18名
実施日 令和4年9月5日(月)/10月3日(月)
内 容 理事長講話、アサーティブ初級 講師:人材育成コンサルタント三好良子先生
- ・初級職員研修(対象:2年目職員) 全2回 参加者19名
実施日 令和4年9月5日(月)/10月3日(月)
内 容 理事長講話、アサーティブ応用 講師:人材育成コンサルタント三好良子先生
- ・初級職員研修(対象:3年目職員) ※第3回目は2年目職員18名 視聴参加
実施日 第1回 令和4年10月7日 研修説明会 オンライン研修 参加者35名
実施日 第2回 令和4年10月31日~11月4日 構想発表グループワーク参加者35名
実施日 第3回 令和5年1月23~27日 実践発表会 オンライン発表 発表者35名
内 容 提案力・伝達力・育成力強化のための業務上の課題、取組、成果を各自発表

②ファシリテーション研修(対象:3年目研修のファシリテーター職員への研修) 参加者12名
実施日 令和4年9月16日(金)

内 容 ファシリテーション基礎講座 講師 メンタルクリエイト 江口毅先生

③中堅層・リーダー層研修(対象:3年目研修を終えた4~5年目職員) 参加者27名

実施日 令和5年2月1日(水) オンライン研修

内 容 「人を育てる人になる」人材育成を学ぶ 講師 C&P, etc. 代表 尾崎眞三先生

④施設長・係長級職員研修(評価者研修) 参加者24名

実施日 令和4年4月7日(金)

内 容 「職員が育つ・私も育つための評価制度」講師メンタルクリエイト江口毅先生

⑤法人内事業所見学ツアー 入社1年~3年目の職員で採用時に事業所見学を未実施だったため

実施日 令和4年12月1日(木)/13日(火)/15日(木)の3日間 参加者39名

⑥ 個人情報保護研修 情報セキュリティハンドブックの読み合わせ、事例研鑽、全事業所実施

⑦ 権利擁護虐待防止研修 権利擁護の制度、虐待防止への取り組み、事例検討 全事業所実施

実施日 令和5年2月17日(金)(対面と動画) 講師:荒井隆一先生

⑧ ハラスメント研修 全2回実施 全事業所実施

実施日 ・法人内研修 令和4年8月2日(火) 制度・規程説明他 講師:事務局長

・集合研修(対面と動画) 令和4年12月8日(木) 講師:樋口ユミ先生

10 令和4年度事業説明会 令和4年4月14日(木)(対面と動画) 理事長講話 障害者福祉課長挨拶
今年度事業計画、事務連絡、新人職員紹介、参加者対象:全職員

11 新型コロナウイルス対策 罹患報告、状況確認、対応協議等の会議を毎月開催(経営企画会議で)

12 地域交流 第20回むさしのあったかまつり 令和4年10月15日(土) 参加者855名
むさしのエコreゾート 作品展示、ゲームコーナー、フリーマーケット他

13 法人設立30周年記念事業

(1) 記念式典 令和4年11月26日(土) 武蔵野スイングホール 来賓者35名

(2) 30周年記念誌「つながるひとの輪」発刊、記念スライド動画作成、記念パンフレット発行

(3) 第13回実践発表会と合同開催

14 その他

(1) 会計監査の実施 会計事務所による会計監査の毎月実施(月次会計相談及び消費税計算)

(2) 労務・法務相談 社会保険労務士及び弁護士による労務管理及び法務の相談の毎月実施

(3) 監査 武蔵野市指定管理労働条件審査 対象施設:武蔵野市障害者福祉センター
労働条件、労務管理、労務環境の審査 実施者:東京都社会保険労務士会

(4) 安全運転管理業務 安全運転講習会は今年度未実施 法人保有車両40台 自転車46台



法人設立30周年記念式典 令和4年11月26日

2 ワークセンター大地

1 事業運営

今年度は、年度初めに特別支援学校を卒業した3名が入所した。また11月下旬に他事業所利用のために1名が退所、3月末に他法人のグループホームに入居するため1名が退所された。

今年度も新型コロナウイルスの影響で昨年度同様感染予防対策を講じながらの運営となった。4月に1つのグループにおいて数名感染が確認されたため、当該グループは4日間休業した。その後はご利用者、職員に感染が確認されることはあったが、クラスターになることはなかった。

事業運営に関しては家族会を7月、11月に集合型で開催し、必要な情報だけでなく活動の様子をお伝えしやりとりした。これまで年度末に行なっていた個別面談は年間を通して行い、対面式とオンラインと選択できるように設定し、ほぼ全員の方と面談を行った。活動では様々な受注作業や軽作業を中心に、閑散期には身体を動かすプログラムや創作活動に取り組んだ。またコロナ禍で外出や外食、調理活動等の利用者が楽しみにしている活動を中止したため、引き続き月1回の小さなイベントを企画し、その中でお楽しみや学びの機会を設けた。中期基本計画に連動するプロジェクトを立ち上げ、①気持ちの表現や選択がしやすいような工夫②閑散期の活動の工夫③高齢化に対応するため昨年度作成したシートを用いてアセスメントを検討・実施した。

2 利用者の状況と活動内容

(令和5年3月31日現在、単位：人)

(1) 利用者数 (定員40名)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	26	0	1	25
女性	9	3	1	11
合計	35	3	2	36

(2) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	12	18	6	0

(3) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 7,841人(通所サービス日数 243日) 1日平均 32.3人 (80.7%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
593	642	750	648	640	684
10月	11月	12月	1月	2月	3月
679	649	651	617	592	696

(4)活動内容

グループ	作業活動	生活活動
サンカ	軽作業、受注作業（キャンプ道具や救急セットの封入）、和紙づくり、自主製品等の作業（押し花コースター、栞づくり、ビーズ）、チラシ配布、ポスティング、他	図書館活動、買い物、音楽鑑賞
ナナカ ハッカ	受注活動（食品関係、封入封緘等、折り作業）、軽作業、紙作業、公園清掃、石拾い、ポスティング、チラシ折り、刺繍、他	スポーツ（ウォーキング、室内運動、市主催のスポーツ広場の参加）、図書館活動、iki なまちかど保健室の活動参加

※コロナ感染防止対策の為、宿泊旅行や1日外出、外食、調理、カラオケ等のプログラムは中止し、小さなお楽しみを企画した。

(5)工賃規定にもとづいて以下の工賃を支給した。

令和4年度工賃支給総額 2,007,640円

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 実習の受け入れ、見学

- ・特別支援学校生徒 のべ8名
- ・社会福祉士実習生、特支等保護者・教員、等

(2) iki なまちかど保健室とのオンライン活動と手話ソング発表会の開催

(3) にじの糸（裁縫ボランティア団体）の協力を得て、創作活動の素材を商品化した。

4 職員研修

(1) 施設内研修

つむラボ／権利擁護虐待防止研修／情報セキュリティ研修／感染症研修／防災合同研修／ケース検討会

(2) 法人研修

2、3年目研修／実践発表会／権利擁護虐待防止研修

(3) 外部研修

東京都障害者通所活動施設職員研修／東京都社会福祉協議会主催研修／東京都社会福祉協議会福祉人材センター主催研修／ダウン症協会主催セミナー／社会福祉士実習指導者研修／強度行動障害指導者養成研修 等

5 苦情受付件数 0件

6 人権擁護虐待等受付件数 1件

3 デイセンター山びこ

1 事業運営

今年度は新規利用者が5名加わり総勢49名でスタートしたが、10月27日にご病気のためお一人の方がご逝去され、12月にお一人の方が市外へ生活の拠点を移されてそれぞれ退所された。また、2月末、3月末に障害者支援施設入所のため2名の方が退所された。従って年度末の在籍は4名減の45名となった。次年度も他法人の入所施設等に移る予定の方が複数名おり、家族の介護の限界や地域生活継続の難しさを痛感する1年であった。

今年度も新型コロナウイルス感染症の対応に追われることが多かった。7月には事業所内で感染が拡大し、25日～26日まで一部のグループ、27日～29日まで全体を休業とした。

事業運営に関しては、第五期中期基本計画の中間年として取り組みを継続した。①利用者を知るケース会議、②アセスメントの再考、③高齢化対策、④地域開拓推進の4つである。このプロジェクトは令和5年度も継続していく予定である。また、事業所内外での職員の相互協力体制の構築も意識して実施した。所属グループを超えた動き、リエゾン職員との協同なども試行した。

令和5年度は特別支援学校等を卒業して入所される方々が2名加わる予定である。この方々が1日も早くなじんでともに活動できるよう、丁寧な受け入れを行っていきたい。

2 利用者の状況と活動内容

(令和5年3月31日現在、単位：人)

(1) 利用者数 (定員 40人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	32	3	3	32
女性	12	2	1	13
合計	44	5	4	45

(2) 障害者総合支援法による障害支援区分の分布 (平均 4.8)

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
	1	4	11	18	11

(3) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 9,430人 (通所サービス日数 241日) 1日平均 39.1人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
772	763	892	702	782	808	821	801	770	757	740	822

(4) 活動について

《基本活動》 5グループにより、メイン活動（織物、缶回収、地域活動、創作活動、健康など）とフリーデイ（個々のニーズに合わせた活動）を中心に活動を提供した。

《各種イベント等》 コロナ禍を考慮しつつむぐとショップは休業した。販売機会も縮小した。むさしのあったかまつりは3年ぶりに開催されたが事業所としては参加せず、個々の意思に任せ自由参加とした。宿泊旅行はコロナ禍を考慮し中止した。小さなイベントをグ

ループ単位で、春の日(終業の集い)を集合形式で実施した。

(5)その他の活動

①保健・給食

- ・健康管理として、健康診断(2回) ※歯科検診、耳鼻科検診は行わなかった。
- ・給食について、栄養士とも連携し、利用者の状況に合わせた給食を提供した。
- ・職場内研修として、感染症予防研修と対応研修を行い実践した。

②防災(避難)訓練

1回は職員でのシミュレーションを中心にした訓練、1回は実際に避難する訓練の計2回実施した。

③家族関連

家族会は4月、7月はコロナ禍のため書面開催、11月は集合形式で開催した。
個別面談はご利用者の誕生日前後に日程を定め、年間を通して実施した。

④広報

広報紙「やーっ報」を年2回発行した。

⑤工賃の支給について

事業所の支給規定により毎月工賃計算を行い、半年ごと(年2回)全ての利用者に支給した。1年間の支払い総額は1,431,870円であった。

3. 地域関連機関や団体との連携

(1) 実習の受け入れ、見学

- ・特別支援学校生徒 6名
- ・社会福祉士実習生、特支等保護者・教員、福祉・医療系大学生等

(2) 地域の方を招いての研修 大野田福祉の会で活躍されている方を講師に話し合い

(3) 創作活動系: 展示販売会、他事業所とのコラボ、市内学校文化祭等での出品・販売を行った。

4. 職員研修

(1) 職場内部研修・3事業所合同研修

権利擁護虐待防止研修/情報セキュリティ研修/つむラボ/ケース検討会/音楽療法
感染症研修/居住との交流研修/創作研修/高齢化対策研修/ハラスメント研修
生活介護情報交換会/防災研修 等

(2) 法人研修

2、3年目職員研修/実践発表会/施設長研修/係長研修 等

(3) 外部研修

東京都障害者通所活動施設職員研修/強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)
東京都社会福祉協議会主催研修/東京都社会福祉協議会福祉人材センター主催研修
社会福祉士実習指導者講習 等
他、施設長・副施設長が他法人等の研修で複数回講師を務めた。

5. 苦情受付件数 0件

6. 人権擁護虐待等受付件数 0件

4 デイセンターふれあい

1 事業運営

今年度は新規ご利用者3名(いずれも特別支援学校卒後の入所)を加え、23名から始まったが、年度内の異動はなく、年度末も同数の在籍となっている。年度途中に通所日を増やした方が3名(それぞれ1日～3日)いたこともあり、稼働率が昨年度よりアップした。事業所の特徴として、一定期間短期入所の利用や、体調を崩すと長引く方が少なくないことなどを踏まえつつ、できる限りコンスタントに通所していただけるよう支援や介護等工夫していきたい。

新型コロナウイルス感染症対策は、引き続き看護師が中心になって施設内や送迎時の衛生・感染症対策を行い、外出活動・飲食活動等を控える、手洗い消毒マスク着用の徹底、密を避けた環境設定等の対応を行いながら活動を継続した(ご利用者、職員ともに複数名の感染があり11月には2日間休業したが、クラスターには至らなかった)。

プロジェクトとして、意思決定支援と創作活動を検討するグループとに分かれて毎月ミーティングを行った。意思決定支援では、ケース支援会議に加え日々のミーティングでその日の気づきを職員間で共有し、さらに深めることが出来た。また創作活動グループでは、法人全体の創作活動チーム「つむぐと」と連動し西荻の雑貨屋など新しい販売委託先とつながり、すぎなみ大芸術祭など新たなイベントへの参加も行った。

医療的ケアについては、看護師と支援員との連携・協働をさらに進める取り組みを行い、成果を上げた。また、看護師間でも定期的なミーティングを行い、手技や対応方法の共有を行うことにより利用者のケアに活かすことが出来た。

2 利用者の状況と支援内容

(令和5年3月31日現在 単位:人)

(1) 利用者数

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	11	1	0	12
女性	9	2	0	11
合計	20	3	0	23

(2) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分	1	2	3	4	5	6
人数	0	0	1	1	5	16

(3) 年間利用状況

延べ人数 3,776 人 (通所サービス日数 243 日)

1日平均 15.5 人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	288	291	355	317	342	331	333	282	309	301	300	327

(4) 活動について

①新型コロナウイルス感染症対策のため、宿泊旅行・外出・喫茶は中止とした。リモートでの活動を取り入れた。

②作品販売：マジェルカ・あめつち(セレクトショップ)での委託販売、武蔵野東学園祭・むさしのあつ

たかまつり・チャレチャレマルシェ・小さな輪っか展等での販売を行った。

作品の1年分の売り上げから材料費(30%)を控除した上で、作品制作に関わった利用者に配分金(工賃)として9月と翌年4月に配分した。 合計 271,850円

③作品展示：虹のワークショップ・キルトワークショップ・武蔵野アールブリュット等での展示等を行った。

④季節行事：夏まつり、クリスマス会、新年会を、新型コロナウイルス感染症対策をしながら行った。

3 地域関連機関や団体との連携等

(1) 実習の受け入れ

- ・特別支援学校生徒 なし
- ・社会福祉士実習生 1名

(2) 地域自立支援協議会当事者部会事務局、高次脳機能障害関係連絡会に職員を派遣した。

4 職員研修

(1) プロジェクトチーム

創作活動、意思決定支援の二つのグループにより、支援や介護の内容や質の向上を目指して取り組んだ。

(2) 法人研修及・職場研修・外部研修

意思決定支援勉強会、感染症対策研修、ケース検討会議、自助具と創作活動研修、リスクマネジメント研修、PTによる身体介護の基礎研修、メンタルヘルス研修、情報セキュリティ研修、高齢化対策研修、権利擁護虐待防止研修、防災研修、東京都障害者通所活動施設職員研修、喀痰吸引(3号者)研修 等

5 苦情受付件数 1件

6 人権擁護虐待等受付件数 0件

7 その他

(1) 保健・給食

- ① 機能訓練・理学療法士(週1回)の助言を受け、機能訓練の実施
- ② 健康管理・健康診断(2回)
- ③ 摂食・ペースト状特別食等、摂食しやすいような配慮

(2) 防災(避難)訓練

年2回実施

(3) 家族関連

家族会は年に3回実施した。4月は書面開催、7月20日と10月26日は集合形式で実施した。

また、年度末に支援計画をもとにした個別面談を実施し、ご本人やご家族と1年間の振り返りを行い、ご要望等も踏まえて次年度計画を作成するための話し合いを行った。

(4) 広報誌

ふれあいの活動をご家族や関係者にお伝えするために、広報誌「日々是充実」を年2回発行した。

5 地域生活支援センターびーと

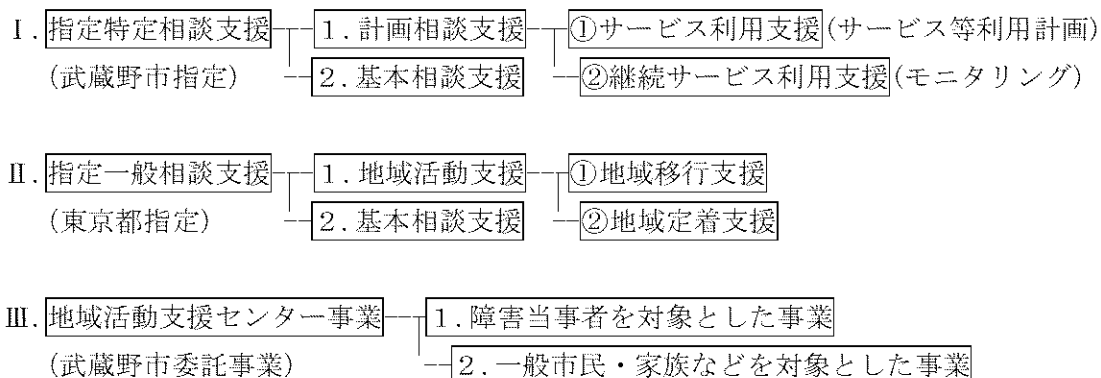
1 事業運営

引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に努めながら事業展開を進めてきた。これまでの活動を継続しながら、新たな地域活動支援センタープログラムの試行にも取り組んでいる。

また、基幹相談支援センターと連携を図り、市内地域活動支援センター3事業所（※1）で集計方法の統一化を行い、事業に関する必要な情報などを共有した。

※1 市内地域活動支援センター：びーとの他、地域活動支援センターコット、ライフサポートMEW

～びーと事業の体系～



2 利用者の状況と活動内容

(1) 相談支援の集計（地域活動支援センター事業と相談支援事業の相談支援件数）

① 相談支援の傾向（地域活動支援センター事業、指定特定・指定一般相談支援事業）

令和4年度は基幹相談支援センターとの話し合いを受けて、集計内容並びに集計方法を市内の地域活動支援センター事業所で統一した。そのため、令和4年度は新たな方法によって集計値が増加する傾向がみられている。

② 相談受付総数と内訳

総相談受付件数：21,337件（年間延べ合計） 実相談件数：541人（年間実人員合計）

新規相談者件数：98人（年間合計） ※内継続して支援している人は20人

新規計画相談者件数：8人（年間合計）

相談区分	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	重複	他	合計
基本相談	330	10	3,466	372	141	9	609	412	5,349
計画相談	428	34	2,767	23	32	0	156	0	3,440
ピアカウンセリング	1	0	1	0	0	0	0	0	2
専門機関	1,345	132	7,085	135	169	3	899	2,642	12,410
時間外対応	3	0	76	10	1	0	5	41	136
合計	2,107	176	13,395	540	343	12	1,669	3,095	21,337

※総件数が昨年度比の約27.2%の増（昨年度は約4.08%の増、一昨年は約0.76%の減）

③ 相談者内訳

NO	区 分	件数	割合(%)	NO	区 分	件数	割合(%)
1	本人からの相談	5,669	26.6	6	親戚からの相談	28	0.1
2	父母からの相談	2,854	13.4	7	関係機関との連携	12,410	58.2
3	配偶者からの相談	5	0.02	8	知人・友人からの相談	11	0.05
4	子からの相談	1	0.004	9	一般市民の相談	58	0.3
5	兄弟からの相談	296	1.4	10	その他(匿名者他)	5	0.02

※全体的な傾向として、本人からの相談が0.7%の微増、関係機関との連携も約1.8%増加。
 びーと相談支援の大きな特徴である本人からの相談が、相談者の中では引き続き多い数字となっている。それに合わせて関係機関との連携数も増加したものと考えられる。

(2) 地域活動支援センター事業

総合計 2,893 人 (単位:人)

区分	動画 配信	北 町 道 場	ダンス 倶楽部	P C 教室	びあ クラブ	くらし 体験塾	手芸 教室	男子会	当事者 学習会
人数	50	129	150	237	39	42	151	65	26
区分	上映会	公開セ ミナー	見学 対応	サポー ター	市民 向け	大野田 福祉会	ヨガク ラブ	他団体 支援	就労者 の集い
人数	87	207	3	15	1496	18	23	84	71

※昨年度とは集計内容が変更された。上記集計値は実際の参加者人数となっている。

他関連業務としてあったかまつり 88 件、大野田福祉の会 61 件、自立支援協議会 350 件がある。

【活動内容】

☆新型コロナウイルス感染症対策により、飲食を伴う活動等は休止した。

また、密を避け小グループ制を導入するなど運営上配慮し開催している。

- 動画配信…「びーとちゃんねる」と名付け、登録者に向けた生活情報などを動画で配信
- 北町道場…創作活動や軽運動活動などにより、参加者同士の交流をはかる機会
- ダンス倶楽部…障害者スポーツ指導員を講師に迎え、ダンスに楽しく取り組む機会
- パソコン(PC)教室…パソコンの初歩的な学習教室。個別とグループの両方で実施
- びあクラブ…人との接触を少なくした個別的な設定で創作活動中心に土曜日に開催
- くらし体験塾…身近な生活テーマを取上げ体験を通して生活力をつける自立体験活動
- 手芸教室…参加者個々が思い思いの作品作りに挑戦する趣味活動
- 男子会…男性登録者に限定し、共通した趣味の話題などで交流をはかる活動
- 当事者学習会…サマーセミナーと称して生活力を向上させる当事者対象の生活学習会
- 上映会…利用者同士で話し合い、動画を鑑賞しながら交流を図る機会
- 公開セミナー…昨年度に引き続き、知的障害者の高齢化をテーマに精神科医の講演を開催
- 見学対応…利用に向けた検討の一環や学習のための施設見学等に対応
- サポータークラブ…一般市民などにびーと活動にボランティアの参加を呼びかけ
- 市民向け活動…フリースペースの運営や福祉情報の提供など一般市民向け事業

- 大野田福祉の会…総合センター地区の福祉の会への参加・応援活動
 - ヨガクラブ…感染対策を講じながら体を動かせるプログラムの試行事業
 - 他団体支援…市民の会や当事者の集まりなどに対する協力
 - 就労者の集い…一般就労されている利用者限定の交流事業（コロナ後は連絡のみ）
- <感染症対策のため、活動再開を見合わせた活動>（順不同で記載）
- わくきん…「わくわく金曜広場」と利用者が命名。金曜日の夜に集まる当事者の集い
 - みんなのキッチン…調理体験と会食を通して参加者同士の交流を促進
 - あったかまつり…あったか祭りに有志として当日企画を出店参加
 - 集まろう会…一般企業等就労者対象の当事者活動（連絡のみで集いは未開催）
 - 北町食育くらぶ…季節の行事を題材に、食をテーマにした学びの機会を提供する活動

（3）月別の相談・来所者集計

月別の平均来館者数について

上記活動支援センター事業関係の1日当たりの月別平均来館者数

（地域活動支援センターI型のびーとは、1日当たりの来館者数20人以上が目安）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	17.6	15.0	13.4	11.0	13.6	14.0	12.0	13.8	14.3	11.9	13.0	13.1

※フリースペースの利用や地活プログラムでの来館者数を月の稼働日で算出

コロナの影響を受けて来館者やプログラム参加者が減少していた。

3 地域関連機関や団体との連携

（1）市地域自立支援協議会（2年任期の2年目の年度）

自立支援協議会の「親会議」委員として、相談支援事業所の代表者区分で施設長が出席。

会長からの指名を受けて、副会長の職を担っている。合わせて、地域生活支援拠点部会の担当委員として部会活動にも参加した。

また、コロナ対応部会、地域移行部会、差別解消部会、地域生活支援拠点部会にびーと職員を各部会に1名ずつ派遣。今回の任期は、令和3年度と4年度の2年任期となっている。

（2）市民・関係機関支援者等向け及び、当事者に向けた公開セミナー（学習会企画）

○市民・関係機関支援者等向け公開セミナー

開催日：令和4年12月7日（水） 午前10時30分から午後12時30分 生配信

令和4年12月14日（水） 午前9時から28日（水）午後6時まで

録画したものをYouTubeで配信

テーマ：「知的障害のある方の高齢化について考える～支援事業から学べること～」

講師：有賀道生医師（桐の木クリニック院長、精神科医）

内容：・知的障害のある方の高齢化の状況や具体的な支援事例等をデータで解説

・ダウン症や知的障害者特有の健康問題、認知症の行動・心理状況、強度行動障害の状態にある方の特性と違いについて説明

・臨床に基づいた具体的な事例の紹介や支援現場の実態なども解説

・当事者や家族の思い、現場の思いなどを紹介

参加者：生配信17名、録画配信190名

○当事者向けサマーセミナー（学習会）

開催日：令和4年8月27日（土）①10：00～11：30当事者向け ②13：00～14：00家族向け

テーマ：「未来の暮らしを考えよう！～グループホームってどんなところ？」

講師：社会福祉法人武蔵野 居住支援ユニットリエゾン職員 大澤昌之主任

内容：グループホーム職員の講義・質疑応答、参加者のグループセッションなど

①当事者向け：グループホーム職員の講義・意見交換、グループワーク

②家族向け：自立に向けた手続きなど流れの説明、手続き内容など

会場：①当事者向け：武蔵野障害者総合センター（感染対策を講じ定員を設けて開催）

②家族向け：感染対策によりオンライン配信

参加者：①びーと登録障害当事者14名

②びーと登録当事者家族13名

4 職員研修（主なものを抜粋して記載）

区分	開催研修テーマ	概要やテーマ等	主催
相談 支援	相談支援従事者研修	相談支援員専門員主任研修	東京都福祉保健局
	精神保健福祉研修	相談・支援力向上研修	多摩精神保健福祉センター
	成年後見制度市民講演会	意思決定支援	三鷹武蔵野社会福祉士会
	医療的ケア児コーディネーター養成研修		東京都福祉保健局
専門 分野	強度行動障害支援者養成研修	強度行動障害基礎研修	東京都保健福祉財団
	虐待防止・権利擁護研修	社会福祉従事者人権研修Ⅰ・Ⅱ	東京都福祉保健局
	高次脳機能障害研修	小児の高次脳機能障害理解	東京都福祉保健局
	強度行動障害支援者養成研修	基礎研修・実践研修	東京都福祉保健局
知識	保健予防講習会	熱中症予防講演会	武蔵野市健康福祉部
	精神保健福祉研修	大人の発達障害	多摩精神保健福祉センター
	こだまネット講演会	障害のある人への成年後見制度	こだまネット
	生活講座	特殊詐欺対策講座	就労支援センターあいる
運営	都自立支援協議会セミナー	地域生活支援研修	都心身障害者福祉センター
	こころといのちの基礎研修	メンタルケア研修	武蔵野市健康課
	メンタルヘルス研修	ラインケア	東京都福祉保健局
	法人評価者研修	職員人事評価者研修	社福武蔵野

※・上記の他に法人職員研修や事業所内の支援会議などを通じて、専門性の向上をはかった。

・受講した職員より報告を行い、研修内容を伝達形式で共有している。

5 苦情受付件数 : 0件

6 人権擁護虐待等受付件数 : 2件

6 ワークセンターけやき

1 事業運営

事業理念「仕事を通してつながりをひろげ、自分らしく成長していく」に基づき、雇用契約を結んで仕事をしたい方から、社会人としてのマナーや働く習慣を身につけたい方まで、幅広い就労ニーズに応えるべく、より上質な就労機会の確保と個別支援の充実を軸に事業運営を行った。

新型コロナウイルス感染症の対策として、利用者・職員の健康管理や器具消毒等を徹底して行った。また食品事業においては令和3年度に引き続き、地域のお客様に安心してご利用いただくための店舗運営に努め、顧客アンケートに基づく商品開発や広報(SNS)の工夫などに取り組んだ。

(1) 就労継続支援A型(定員10名)

働く力を有しながらも企業就労の機会が得られない方に対して、印刷部門および食堂部門(市役所8階さくらごはん)で雇用契約を結び、合理的配慮に基づいた労働環境を提供した。

(2) 就労継続支援B型(定員30名)

封入等軽作業や天然酵母パンの製造、販売、喫茶パールブーケの運営を行い、合理的配慮に基づいた作業環境を提供した。

2 利用者の状況と支援内容

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
A型(回)	72	69	73	66	72	68	68	71	58	62	65	62	806
B型(回)	524	493	576	511	509	510	513	473	511	486	466	533	6,105
計(回)	596	562	649	577	581	578	581	544	569	548	531	595	6,911

(1) サービス利用契約の状況

利用開始0名、終了1名(他サービスへの移行1)により、1名減(36名)となった。

(2) サービス提供時間

① 就労継続支援A型 … 9:00~16:00、週5日の勤務時間内で、精神障害のある方の短時間雇用も含み、利用者に応じて柔軟に設定した。

② 就労継続支援B型 … 8:00~16:00の作業時間内で、利用者に応じて柔軟に設定した。

(3) 就労支援事業について

① 印刷・サイン (就労継続A型) 37,181,793円

② 封入等軽作業 (就労継続B型) 20,512,695円(うち図書館委託業務 3,780,040円)

③ 喫茶ベーカリー (就労継続B型) 23,203,342円

④ 食堂 (就労継続A型) 12,342,275円 合計 93,240,105円

前年度比は①△2.6%、②+15.9%、③△1.0%、④+15.8%、全体+3.7%と微増ではあるが、新型コロナウイルスの影響から全体的に回復しつつある。特に、イートインが大きな影響を受けた④については、11月頃より来客数が増え始め、コロナ禍前(令和元年度)との各月比が60%台から70%台後半まで回復している。①については、印刷物の発注自体が減少傾向にあり、売上高は微減傾向にある。

(4) 個別支援計画の策定

半期毎（年2回）に利用者個別面談を行い、モニタリングと個別支援計画の策定を行った。

(5) 関係機関との連携による生活支援の取り組み

主にグループホームや独居の利用者に対し、生活上必要な支援を各関係機関と連携して取り組み、利用者の円滑な地域生活や就業生活の維持に努めた。

(6) 余暇活動支援

年末営業最終日に利用者交流会（希望者のみ）を実施した。

(7) 学習活動支援

社会生活力の向上をテーマにグループ学習活動を行った。また個別ニーズに応じて、ジョブアシストいんくるの就活プログラムへのビジター参加枠を設けた。

(8) 保健衛生

定期健康診断、内科検診等を実施した。

3 地域関連機関や団体との連携

コロナ禍で中止されていたベーカリー部門の外販イベントのうち、NTT 武蔵野開発研究センター内の販売会が令和5年3月より再開した。市友好都市コラボメニューを開発し、さくらごはん とカフェ・ル・ブレの両店で販売した。「武蔵野市暮らし地域応援券」（第3弾）にパールブーケ、カフェ・ル・ブレ、さくらごはんの3店舗が参加し、地域住民の方に多数ご利用いただいた。

4 職員研修

(1) 事業所内全体研修（シフト勤務の職員がいるため、同内容で複数回実施）

① 6/22(水)、23(木) 法人理念、虐待防止・権利擁護、情報セキュリティ、就業規則の変更、令和3年度決算・令和4年度予算、障害のある方の社会参加を考える、他

② 11/1(火)、11/10(木)、11/16(水) 感染症対策、嘔吐物処理の仕方

(2) 法人就労支援領域合同研修（けやき、いんくる、武蔵野福祉作業所、りぷる）

アセスメントの視点をもう一度学ぶ（講師：高原浩氏 1/19(木)実施、2～3月 録画配信）

(3) 個別研修

東社協 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 中堅職員研修（3名）、同 チームリーダー研修（1名）、都立多摩総合精神保健福祉センター 精神保健福祉研修（3名）、東京障害者職業センター 就業支援基礎研修（1名）、ヤマト福祉財団パワーアップセミナー（3名）、他

5 苦情受付件数

0件

6 人権擁護虐待等受付件数

0件

7 その他

(1) 利用者・家族向け広報「けやきだより」発行（年3回）

(2) 防災訓練実施（年2回）

7 ジョブアシストいんくる

1 事業運営について

ジョブアシストいんくるは、就職を志す障害のある人を支え、企業就労を実現し、継続するための支援を行ってきた。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、感染対策に留意しながら従前通りの活動を継続して実施した。雇用する側である企業も今後の雇用率の上昇を見据えるなどで採用活動を活発化させるところが多く、少しずつではあるが、コロナ禍前の状況に戻りつつあるのを感じながらの事業運営であった。

2 ご利用者の状況と活動（支援）内容

(1) 就労移行支援

① ご利用者の状況

令和4年度末登録者数（直Bアセスメント利用者3名を除く）（単位：人）

事業名（定員）	令和3年度末	新規利用開始	年度内利用終了	令和4年度末
就労移行（20）	22	16	16 （内11名就職）	22

年齢別ご利用者数（平均年齢31.7歳） 利用終了時もしくは年度末時点（単位：人）

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	合計
男性	0	14	14	1	2	0	0	31
女性	0	4	2	1	0	0	0	7
合計	0	18	16	2	2	0	0	38

障害・度数別ご利用者数 利用終了時もしくは年度末時点（単位：人）

級/度	身体	知的	精神	なし	計
1	1	0	0	/	/
2	1	0	8		
3	0	1	13		
4	0	12			
5	0				
6	0				
なし				2	
計	2	13	21	2	38

- 令和4年度の1年間で16人が新たに利用を開始している。令和3年度より若干少ないが、ほぼ同程度の水準である。例年同様、新規ご利用者の多くは、各地域の就労支援センターや相談支援事業所などの関係機関から紹介を受けている。
- 平均ご利用者数は19.7人と昨年度（16.0人）と比べて増加している。年度当初は週3日利用の方が多かったが、活動に慣れるにつれ利用日数が増加したことによる。
- 令和4年度ご利用者は累計で38名になり、平均年齢は31.7歳であった（利用終了時、年度末に利用継続の場合は年度末時点で）。
- 精神保健福祉手帳所持者が21名で半数以上を占めた。手帳がない状態で利用を始めた方が2名いるが、開始時にはいずれも手帳申請中の状態であった。

② 就職者の状況

令和4年度 就職者の状況

(単位：人)

手帳種別	人数	業務内容	人数	就業場所	人数
精神	7	事務系	1	市内近隣	2
知的	3	事務補助系	4	都心部	4
身体	1	作業系	3	多摩地域	3
なし	0	店舗系	0	区部西部	1
計	11	厨房系	1	都外	1
		清掃系	2	計	11
		計	11		

(うち発達障害は7名)

- 令和4年度は11名が企業等に就職した。
- 手帳種別では愛の手帳所持者が3名、精神保健福祉手帳所持者が7名。また、全体のうち7名が発達障害の診断、もしくは傾向があると言われている方である。
- 就職先の業務内容は事務系(事務補助含む)が5名、作業系(清掃・店舗運営など)が6名。
- 就業地域は武蔵野三鷹地域が2名、多摩地区が3名、23区が5名、都外が1名となっている。
- 今年度就職者の就職先は以下の通り。
ジョブサポートパワー(株)、(株)LEOC、サイオステクノロジー(株)、西東京中央総合病院、河北総合病院、ゆうせいチャレンジド(株)、井上金属(株)、国立国際医療研究センター、(公財)武蔵野市子ども協会、(株)パスコ
- 開設以来(9年10カ月)では96人が就職し、のべ27人が離職に至っている。

③ 活動内容

就労トレーニング・就活プログラム・パーソナルアシストを個人別利用カリキュラムにより実施した。また、個別に選択や組み合わせのアレンジを行うにあたり、ご利用者の理解を助けるために、個別面談やプログラム見学などを行った。

- 就労トレーニング(作業)
 - ・「封入等作業」を基本作業としつつも、適性に合わせて幅広い作業種に携わる機会を関係機関と連携して提供した。(主な作業内容：封入封緘作業、清掃業務、図書館受託作業、厨房調理補助作業)
 - ・企業体験実習：民間企業の協力で職場の見学・体験など施設外支援を多数実施した。また、東京しごと財団や東京労働局主催の企業体験実習も積極的に利用し、企業実習の機会を数多く提供した。
- 就活プログラム
 - ビジネススキルアップ(ビジネスマナー)、パソコン講座、オフィスワーク(事務スキル)、メモのとり方、セルフラーニング(自習機会)など就職活動に必要な知識、技術獲得の機会や、グループワーク、JSTなどご利用者同士でのコミュニケーションスキルの向上を図る機会を幅広いご利用者層に合わせて多層的に設定し実施した。
- 就職準備(企業就労への支援)
 - ・履歴書作成や面接訓練などを、原則個別対応できめ細かく実施し効果を上げた。
 - ・求職活動や就職面接、実習、トライアル雇用に同行し、就職活動を支援した。

④ 活動時間

月曜日から金曜日、8:30~17:00の間で、各人の状況やプログラムの選択に合わせて柔軟な時間設定と利用日でカリキュラムを作成した。

⑤ 利用契約と個別支援計画

利用契約を結び、個別面談を月2回以上実施し、本人の意向に沿って個別支援計画を策

定し、3 か月ごとにモニタリングを行った。

⑥ 訓練手当について

就職に向けてのプログラムとしての意義から、作業実習に関わる時間については、東京都最低賃金の3分の1相当額を訓練手当として支給した。（年間平均で時間あたり360円を支給）

⑦ 就職後の定着支援

就職者については、半年を目安に定期訪問や面談などの定着支援を行った後、就労定着支援事業（後述(2)）の利用か各地域の就労支援センターへの移管を就職者に選択していただいた。

(2) 就労定着支援事業

① ご利用者の状況

令和4年度末登録者数

(単位：人)

事業名	令和3年度末	新規利用開始	年度内利用終了	令和4年度末
就労定着	19	9	6	22

- 就職後6ヶ月を経過しての登録になるため、順次契約を進め、9名が新規利用開始となった。
- 年度内終了者は6名。6名とも就職から3年6ヶ月が経過し、サービス利用期限満了を迎えた方である。終了後は住所地にある就労支援センター等関係機関に定着支援を引き継いでいる。

② 支援内容

- 毎月最低1回は就職者の方との面談を実施するのを基本に、必要に応じて職場訪問や通院同行、関係機関との連絡調整などを実施し、企業就労の継続を図った。
- 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が昨年度より薄らいだものの、コロナ禍で実施してきたオンラインによる面談も依然ニーズがあり、就職先等で日常的にオンラインシステムを利用している方を中心にオンライン面談を実施した。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度は実施を見送った就職者同士の交流機会である「就職者の会」は、令和5年3月、マスクの着用や飲食の機会を設けない形とするなどの対策をした上で実施。7名の参加があり、自身の近況や仕事に対する考えなどを意見交換した。

(3) 生活困窮者就労準備支援事業・被保護者就労準備支援事業

① ご利用者の状況

事業名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生活困窮者・被保護者就労準備	9	6	9	12

令和4年度も昨年度と同じく、疾病等により離職し、就職活動のサポートが必要となったケースや、新型コロナウイルス感染症の影響で就労日数・時間が減少したことにより、経済的に困窮されるケース、就労経験がほとんどなく、働くことの経験をしたいというニーズのある若者のケースなど、様々なケースの対応を行った。

② 活動内容

従来から行っている「就活カフェ」や個別の相談による支援を中心にしながらも、継続的にコミュニケーションプログラムやPC講座、軽作業練習などのプログラムに参加する方も増えてきている。

また、新たな取り組みとして、令和5年2月、これから就職活動を始めたい方を主な対象として、就職活動の進め方や就労準備支援事業の利用方法などをご案内するセミナーを開催した。12名（ご利用者6名、ご家族1名、市役所・公社職員等関係者5名）の参

加があり、実施後のアンケートでは「就職活動に対する不安な部分の説明がきけてよかった」「これからの就職活動の役に立った」というご意見を複数いただいた。

3 地域関連機関や団体との連携

就労移行・就労定着支援事業ではご利用者居住自治体の障害者福祉課や計画相談事業所、市区町村就労支援センター、生活困窮者・被保護者就労準備支援事業では武蔵野市生活福祉課や武蔵野市福祉公社と緊密に連携して支援を進めている。その他の支援機関は以下の通り。

(1) ハローワーク

- 三鷹、新宿、立川など、ご利用者の居住地を管轄する都内ハローワークは、求職登録をはじめ、面接会等新規求人情報の共有や障害者委託訓練の申込など、ご利用者の就職活動に必要な連携を実施している。
- ご利用者と企業のマッチングを向上させるための取り組みとして、ご利用者に居住地を管轄するハローワークのトータルサポーターと定期的に面談する機会を用意し、ご利用者のニーズや状況等を知っていただいた上で、ニーズに合い、力を発揮できそうな求人を紹介していただけるよう連携し、就職に結びつけている。
- 生活困窮者就労準備支援事業においては、自立支援調整会議等でのケースカンファレンスを通じてハローワーク三鷹の担当者と支援状況を共有し、支援上の役割分担をするなど必要な連携をしている。

(2) 東京障害者職業センター

就職者の職場適応を支援するジョブコーチの派遣等を通じ、支援の進め方などを協議しながら協働で支援を進めている。

4 職員研修

就労支援をはじめ、支援技術全般の向上のため、以下の研修に職員を派遣した。

- 就業支援基礎研修
- 職場適応援助者支援スキル向上研修
- 生活困窮者支援事業実施者向け研修 他

5 苦情受付件数

0 件

6 人権擁護虐待等受付件数

0 件

8 武蔵野市障害者就労支援センターあいる

1 事業運営

武蔵野市障害者就労支援センターは、「武蔵野市障害者等就労支援事業実施要綱」に基づき、障害者及び障害児（以下「障害者等」という）が安心して働き続けることができるよう、身近な地域においてその就労面及び生活面の支援を一体的に提供することにより、障害者等の一般就労の促進を図り、以って障害者等の自立及び社会参加の一層の促進を資することを目的に事業を実施している。開所から16年が経過し、登録者は400名を超えた。障害とニーズの多様化をはじめ、今後予定されている障害者総合支援法改正、雇用率の改定など、障害者雇用を取り巻く状況は大きく変化している。これらに対応すべく、令和4年度は初めての試みとして、地域雇用主を対象に武蔵野市障害者就労支援センター雇用連絡会を開催するなど、様々な工夫をしながら事業に取り組んだ。

2 利用者の状況と支援内容

(1) 登録者の状況

① 登録者全体の状況（全405名の内訳）

手帳別人数		年代別人数		状況別人数	
手帳種別	人数	年代別	人数	状況	人数
身体障害	24	18～20歳	16	在職	269
知的障害	141	21～29歳	87	求職(在宅)	29
精神障害	224	30～39歳	92	求職(施設)	62
なし	16	40～49歳	115	その他	45
計	405	50～59歳	69	計	405
		60歳以上	26		
		計	405		

- 精神障害者福祉手帳所持者が登録者の55%を占める。
- 40歳以上の登録者が半数以上で、登録者の23%は50歳以上である。
- 登録者の2/3が在職者である。求職中の方は就労移行支援事業所等施設を利用している人が多い。

② 新規登録者の状況

- 新規登録者数は36名で昨年度と同じ。手帳種別では精神障害者福祉手帳が25名で最多。同傾向が続いている。
- 状況別では9名が就労移行支援事業所からの定着支援引継ぎである。

(2) 新規就職者の状況

- 新規就職者数は28名で昨年度並み。
- 手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が7割弱を占める。

(3) 離職者の状況

- 離職件数は10件。例年より減少。
- 離職者のうち8名は50歳以上。体調安定等の就労準備に取り組んでいただく必要がある方が多く見受けられた。

(4) 支援の状況

① 支援全般について

<支援内容別件数>	合計(件)
職業相談（就労全般）	4,403
就職準備支援（適性、能力の把握、就労意欲や職業能力の向上等）	185
職場開拓件数（独自の職場開拓）	5
職場実習（通勤援助、職務分析等）	109
職場定着支援	385
離職支援（諸手続き、調整等）	30
通院同行	46
家庭訪問	20
合 計	5,183

- 職場定着支援件数は昨年度並み。
- 通院同行件数及び家庭訪問件数が昨年度同時期と比較して増加。その必要があるケースが集中したためである。

② 余暇支援

- 登録者の交流を目的とした茶話会は新型コロナウイルス感染防止対策を行った上で開催した。
- 11月、障害のある方やそのご家族を対象とした生活講座を初めて実施。SNSなど気軽な交流の中で起こる不安やトラブルについての相談が寄せられることが徐々に増えてきていることから、スマホトラブルの対処法をテーマに、武蔵野消費生活支援センターの方を講師に招いた。9名参加。

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 市内就労移行支援事業所等との連携体制の強化

今年度は、以下内容で武蔵野市障害者就労支援ネットワーク学習会を計3回開催した。

① 第1回

- テーマ：「働く障害のある方に必要な生活支援とは～地域活動支援センターの視点から、生活課題の視点に気づく～」
- 内容：地域活動支援センターにおける働く障害のある方への生活支援の事例を通して、就労支援に携わる職員が、障害のある方の生活課題や権利擁護の視点に気づき、日常の支援に引き付けて考えられるようにする。講義形式。
- 日時：9月2日（金）18:30～20:00／ZOOMによるオンライン開催

- 講師：株式会社浩仁堂カバーヌ 施設長 佐藤律々子氏
- 参加者：40名。市内就労支援事業所職員、学校関係者、障害者福祉課職員等。

② 第2回

- テーマ：「東京都認証ソーシャルファームの現状と展望～新しいダイバーシティとソーシャルインクルージョンのカタチ～」
- 内容：2019年の条例制定から東京都認証型のソーシャルファームはどのような広がりを見せているか。特に障害者雇用との関係性における現状と展望について学ぶことで、就労支援に携わるあいる及び関係機関の支援員が、今後の就労支援実践（特に就労先の選択肢の拡がり）に活かせるようになることを目的とする。講義形式。
- 日時：12月9日（金）18:30～20:00／ZOOMによるオンライン開催
- 講師：公益財団法人東京しごと財団企業支援部雇用環境整備課長 井上あずみ氏／東京産業労働局雇用就業部就業推進課長代理 安藤佳美氏
- 参加者：30名。市内就労支援事業所職員、学校関係者、障害者福祉課職員。

③ 第3回

- テーマ：「①就労選択支援について（情報共有）」「②皆さん、アセスメントって、どうしてますか？」
- 内容：障害者総合支援法の改正による就労選択支援制度の導入など、今後障害のある方の就労選択に関する仕組みが大きく変化していくことが予想される。まずは市内関係機関で事前に実施したアンケート結果等から現時点における認識の共有をはかる。また、就労選択支援制度の導入では、就労アセスメントの手続き、使用ツールが共通化されるとあるが、各機関における現時点でのアセスメント実施状況や課題について共有することを目的とする。
- 日時：3月17日（金）18:30～20:00／ZOOMによるオンライン開催
- 講師：東京障害者職業センター多摩支所 職業カウンセラー 熊谷舞佳氏
- 参加者：32名。市内就労支援事業所職員、就労支援に関心のある方等。

(2) 武蔵野市役所障害者庁舎内実習

- 今年度は第1期の庁舎内実習を令和4年10月17日（月）～10月28日（金）の2週間、第2期を令和5年2月6日（月）～2月17日（金）で実施した。
- 実習生の公募は例年通り、あいる及び市内就労移行支援事業所等に向けて行い、あいる職員が事前に実習内容の説明、配慮事項等の聞き取りを行った上で、障害者福祉課、人事課の担当者による選考を実施し、参加者を決定した。
- 例年、「1期につき定員2名、1名につき2週間の実習」を基本としてきたが、実習受入課が十分確保できなかったため、第1期、第2期とも1名につき1週間の実習としながらも、定員は1名増やし、3名の実習生受入を実施。1週間の実習期間については、参加者からは「参加しやすかった」と好評だった。

(3) 武蔵野市、三鷹市、ハローワーク三鷹共催「障がい者の就労を考えるつどい」

障害者雇用の理解促進と啓発を目的に、年1回、武蔵野市、三鷹市、ハローワーク三鷹で合同開催。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、オンデマンド配信形式で行ったが、今年度は小規模集合開催とオンデマンド配信のハイブリッド形式で実施。

- テーマ：「障害者雇用ははじめの一步～採用検討から職場定着までの流れと支援～」
- 内容：ハローワークによる行政報告、中小企業の雇用促進に向けた東京都の制度と支援の仕組みについての紹介及び制度を活用した企業の取り組みから、採用のプロセスと定着のための仕組みの在り方について、参加者と学びを深める。
- 日時：10月26日（水）14:00～16:10／配信期間 11月21日～12月20日
- 場所：三鷹産業プラザ7階会議室／配信はyoutubeで申込者への限定公開
- 講師：株式会社ウィットスタジオ障害者雇用担当者／ハローワーク三鷹精神障害者雇用トータルサポーター／東京しごと財団障害者雇用ナビゲート事業担当者／青少年自立援助センター中小企業障害者雇用応援連携事業担当者
- 申込：136名（関係者含む）／当日参加者：65名／動画再生回数（延べ）211回

(4) 武蔵野市障害者就労支援センター雇用連絡会（今年度初開催）

- テーマ：「企業の求人ニーズに伝えていく、地域の就労支援の仕組みについて」
- 内容：障害者雇用を検討している企業の求人ニーズについて、地域にどのような支援の仕組みがあるかや、障害のある方の就職までのステップ等、採用の入り口に関する基本的な情報を発信する機会とする。
- 日時：令和5年2月21日（火）14:00～15:30／ZOOMによるオンライン開催
- 対象：障害者雇用を検討している、または興味のある企業担当者
- 協力：公益財団法人東京しごと財団障害者就業支援課
- 参加者数実績：4名（企業担当者2名、関係機関2名）

(5) 多摩地域障害者就労支援事業所連絡会

今年度は「地域における支援ネットワーク」「登録者の高齢化への対応」「定着支援の現状」をテーマに取り上げて連絡会を開催。オブザーバーとして東京都福祉保健局、東京都産業労働局の担当者にも参加いただいた。

4 職員研修

(1) 事例検討会

帝京大学元永教授をスーパーバイザーに招き、事例検討会を全5回実施。就労面だけでなく、生活面、家族関係、貧困の問題など、複合的な問題を抱えるケースが増加する中、職員間の意見交換とスーパーバイザーからの具体的な助言を元に学びを深めた。

(2) 外部研修

26件参加。

9 武蔵野福祉作業所

1 事業運営

利用者の推移としては、4月以降に3名が入所し、利用者81名（就労移行・就労継続支援B型・生活介護）の在籍となった。その後、4名が退所し、年度末時点では77名の在籍となっている。年齢の分布をみると65歳以上が全体の約8%、平均年齢は39.7歳となった。加齢や機能低下が原因で自力通所が困難になった利用者が通所先変更のため退所し、50代以上の割合が減少傾向となった。

今年度も感染症対策として、①作業場以外の場所を活用して利用者を分散させる、②休憩時間を細分化して利用者同士の接触時間を減らす、③利用者と感染症に関する研修会を実施する、等の取り組みを継続した。また、集団での行事を中止、または感染対策を取り入れた実施方法に変更する等、感染拡大防止を図った。

2 利用者の状況と活動内容

(1) 利用者数

令和5年3月31日現在（単位：人）

事業名（定員）	前年度末	入所	事業間異動 での増減	退所	今年度末
就労移行（6）	0	0	0	0	0
就労継続B型（64）	67	3	0	1	69
生活介護（10）	11	0	0	3	8
計（80）	78	3	0	4	77

(2) 年齢別利用者数（平均年齢40.1歳）

令和5年3月31日現在（単位：人）

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	合計
男性	1	13	16	9	7	1	3	50
女性	1	6	7	6	5	0	2	27
合計	2	19	23	15	12	1	5	77

(3) 障害者自立支援法による障害支援区分の数

令和5年3月31日現在（単位：人）

未確定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
23	0	8	25	16	5	0	77

(4) 障害・度数別利用者数

令和5年3月31日現在（単位：人）

		愛の手帳					精神手帳			合計
		1度	2度	3度	4度	なし	1級	2級	3級	
身体障害手帳	1級	0	2	0	1	1	0	0	1	5
	2級	0	1	1	0	1	0	0	0	3
	3級	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	4級以下	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	なし	0	28	33	4	0	0	1	0	66
	合計	0	31	36	5	3	0	1	1	77

(5) 活動時間

基本的な活動時間は9時～16時（一部16時15分）を基準とし、時間構成は4コマで、午前と午後の15分休憩と昼休み60分を設定した。

(6) グループワークプログラム

少人数グループプログラム「WG夢の扉（健康体操）」「WGつながる（作業所紹介ビデオ作成）」「ワークショップ（表現活動）」を実施した。

(7) 作業活動と工賃

就労収入は経済活動再開の影響から、コロナ前の水準まで回復してきており、前年度比103%となった。一方で物価高騰の影響が大きい食品事業では、原価率が上がり、諸経費も増加しているため、販売価格の見直しを迫られている。工賃支給実績（多機能合計の月平均）は、令和3年度13,150円に対し13,229円となった。工賃評価を10月に実施した。

【売上実績表】

（単位：千円）

	食品部門			受注部門	合計
	給食	レストラン	配食・イベント		
令和3年度	15,122	8,743	5,525	11,503	40,893
令和4年度	14,887	9,736	5,842	12,320	42,785

(8) 年間行事

- ・バスハイク、一泊旅行、クラブ活動は、感染症拡大のため中止とした。
- ・納涼会（懇親会）を実施した。

日 時：令和4年8月8日（月）、9日（火）10日（水）、12日（金） 15時～16時

参加者：利用者 56名

内 容：ゲーム、短冊書き、お土産（七福お菓子セット）の持ち帰り

- ・忘年会（懇親会）を実施した。

日 程：令和4年12月5日（月）、6日（火）、9日（金）14時15分～16時

参加者：利用者 58名

内 容：ビンゴ大会、クイズ大会、クリスマス飾り制作、お土産（七福お菓子セット）の持ち帰り

- ・新年会を実施した。

日 時：令和5年1月4日（水）10時45分～12時40分

出席者：利用者 63名、職員 17名 計 80名

内 容：感染対策を行った上で少人数グループ毎に実施。新成人のお祝い、夢の扉発表（VTR）、書初め、会食等

- ・研修会（利用者）を2回実施。防災や感染症に関する研修を実施した。

（9）自治会

役員選挙を実施し、新役員6名が中心となる本人活動への支援を行った。

3 地域関連機関や団体との連携

（1）市立大野田小学校への学習協力

11月10日（木）4年生の「総合的な学習の時間」での授業協力

（2）成蹊大学理工学部システムデザイン科との福学協働の取り組み

「プロジェクト実習」への協力（オンライン授業・研究へのフィードバック等）

（3）やさい食堂七福と武蔵野市健康づくり事業団との連携

レストランメニューに関する管理栄養士によるコメント掲載

健康づくり事業団主催の血压セミナー（12月）への減塩食弁当の提供

（4）武蔵野クリーンセンターのエコ弁当イベントへの参加

（5）武蔵野市くらし地域応援券事業への参加

4 職員研修

内部研修として、研修「福作の根っこを考える」（2回）、医務研修、感染症研修、防災研修、権利擁護研修、就労支援研修、情報セキュリティ研修を実施した。外部のオンライン研修等へ職員を派遣し、参加者は職員に研修内容を報告し共有を図った。

5 苦情受付件数 3件

6 人権擁護虐待等受付件数 1件

7 その他

（1）保護者連絡会

例年5月、9月、3月の年3回を原則として施設より利用者家族に向けた情報伝達の間

を設けているが、今年度は感染拡大防止のため中止し、書面での報告とした。

3月3日(金)に臨時の家族連絡会を開催し、作業所の建て替え計画の説明を行った。

(2) 広報紙

利用者向け広報紙「むさしのだより」を毎月発行した。

(3) 保健衛生

看護師による日常看護としての利用者の健康管理と嘱託医（内科・精神科）による健康相談を毎月5回、健康診断、歯科検診（武蔵野市在住・希望者のみ）を実施した。また、感染症対策、緊急医療対応シミュレーション研修を行った。

(4) 給食

法人の栄養士が献立を作成し、就労支援事業として職員と利用者で調理した給食を提供している。主食と主菜の選択食をそれぞれ毎月1回行った。

(5) 総合防災訓練

感染拡大防止を図りグループ単位での避難訓練を実施した。月1回、発災時にヘルメットを速やかにかぶる練習として「ヘルメット訓練」を実施した。

(6) 年間実績一覧

多機能型・定員	80名	見学者数(利用に向けての見学)	4名
利用者延数(年間)	16,460名	実習生(一般・学生等)延人数	23名
サービス提供日数(年間)	243日	事前の体験利用者数	28名
利用者数 1日平均	68名		

10 ワークステージりぷる

1 事業運営について

新型コロナウイルス感染症の感染予防を継続して行いつつ、ご利用者もほぼコロナ前の状況まで稼働率が戻ってきている。

作業生産活動は、引き続きコロナ禍の影響で簡易作業の総量は減少傾向にあったが、受注量は増加傾向にある。しかし、総売り上げは昨年度実績を上回ったが、コロナ禍以前のような勢いはなく、今後も発注先の業界の動向は注視する必要がある。

他事業所との共同作業の連動性はより高くなり、スムーズな共同作業を進めた。特に繁忙期の対応は、互いの事業所が連携を密にし、効率よく作業を実施した。

新型コロナウイルス感染症の対する感染予防を講じていたが、8月に開設以来初めて臨時休業とした。保健所の指導を仰ぎつつ、感染予防対策を見直し現在に至るが、改めて小規模事業所内の感染防止対策の難しさを知るところとなった。

外出活動は自粛したが、ささやかながら忘年会と新年と成人を祝う会の行事を、感染予防の対策を講じた上で開催した。(数年ぶりに成人となる利用者がいた為、新年と成人を祝う会として開催)

2 利用者の状況と活動全般

(1)利用者数の状況（令和5年3月31日現在 単位：人）

①利用者数

事業別（定員）	前年度末	入所	退所	今年度末
就労継続B型（20）	24	0	0	24

②月別利用状況（稼働率は、定員20人に対するの比率）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数	490	431	488	441	301	439	458	439	437	406	388	431	5,149
稼働率	122	113	110	110	68	109	114	109	109	106	102	97	105

③年齢別利用者数（平均年齢37.1歳）

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合計
男性	0	6	3	6	1	16
女子	0	1	3	3	1	8
合計	0	7	6	9	2	24

④障害度数別利用者数

		愛の手帳					合計
		1度	2度	3度	4度	なし	
身障手帳	1級	0	0	0	0	0	0
	2級	0	0	0	0	0	0
	3級	0	0	0	1	0	1
	4級以下	0	0	0	0	0	0
	なし	0	5	8	10	0	23
	合計	0	5	8	11	0	24

⑤障害支援区分別利用者数

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
3	1	7	11	2	0	0	24

(2)活動時間

利用時間を 9 : 30~16 : 30 とし、11:00 と 15:00 に 15 分の休憩、12:30 より 60 分を昼食時間として活動を提供している。

(3)作業生産活動

① 受注の状況

作業量が枯渇することはほぼ無く、継続的に受注することができた。ダイレクトメール発送代行（封入等）などの受注作業を中心に、新規の業者からの引き合いもあった。

法人内の他事業所との連携について、より柔軟に対応し互いの事業所の繁忙と閑散を補完するように、受注量の増加を目指した。

②売上実績（単位：千円）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
令和 2 年度	400	251	367	364	496	521	517	576	858	517	534	761	6,162
令和 3 年度	573	371	605	694	431	725	820	561	612	786	402	657	7,237
令和 4 年度	785	573	646	690	391	757	665	573	486	512	759	483	7,325

③作業環境整備

昨年度同様に感染予防のために、1人作業を基本としたレイアウトとした。この環境でのレイアウトが定着しており、作業効率も特に影響なく行えている。

また、結束機や帳合機は、定期的なメンテナンスを行い、基本性能の維持することで作業効率の向上に繋がっている。

(4)社会生活活動支援

① 朝の会

引き続き、コロナ禍のために職員が運営を行った。

② 特別活動

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策をしつつ、忘年会、新年と成人を祝う会を実施した。いずれも活動室内で実施し、短時間でを行うように内容を調整した。また、今年度は成人された方が1名おり、門出を祝う場も設定した。

③ 外出活動

新型コロナウイルス感染症の感染状況から、昨年度に引き続き宿泊旅行は中止とした。

④ 個別支援計画とケース会議

- ・新型コロナウイルス感染症の状況から、見送っていた家族面談を再開し、個別支援計画の年間まとめや次年度の個別支援計画に要望などを反映させることができた。

- ・サービス提供記録

前日のサービス提供内容について、翌朝のミーティング後、利用者本人が確認、押印する方式を継続した。

・ケース検討

利用に関する関係者会議を適宜開催した。毎夕日常的な振り返りを行い、課題と情報の共有を図った。

・年間実績一覧

定員	20名	見学者数(利用に向けての見学)	2名
利用者延数(年間)	5,149名	実習生(一般・学生等)延人数	10名
サービス提供日数(年間)	243日	事前の体験利用者数	0名
1日平均	21.26名		

3 地域関連機関や団体との連携

武蔵野市自立支援協議会や、あったかまつりに委員を派遣し活動に協力をした。

4 職員研修

情報セキュリティ研修、虐待防止研修（読み合わせ、動画視聴）のほか、就労支援事業所合同で実施した研修会にも参加した。朝の会等で課題となる個別事案の協議も行った。

5 苦情受付件数

0件

6 人権擁護虐待等受付件数

0件

7 その他

(1) 給食

武蔵野福祉作業所で調理した給食をランチケースに盛り付け、毎日提供した。また、従来外食やお弁当などの買い物を奨励していたため、メニューを見てお弁当を買いに外出するご利用者もいる。

(2) 保健衛生

定期健康診断、歯科検診（武蔵野市内在住者のみ）、医師による医療相談や看護師による日常健康管理を行った。

(3) 防災対策

きたまちハウスと連携し、「北町ほっと館」全体の避難訓練を実施した。

(4) 臨時休業

昨年度8月に職員を中心に複数の新型コロナウイルス感染症の陽性となり、通常の実業体制の維持が困難となった為、止む無く8月10日(木)～19日(金)を臨時休業とした。

11 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 通園部ウィズ

1 事業運営

当事業所は武蔵野市より委託を受けている指定管理施設で、令和2年度より『相談部ハビット』との機能を合わせて、児童発達支援センター（児童福祉法）として運営している。

児童の通所部門『通園部ウィズ』の対象児は3～5歳児で、1日の定員は20名である。

今年度は子どもの登録が年間で22名、平均利用数が15.5/日、稼働率が77.2%であった。コロナ感染拡大のため7月に3日間を臨時休園とした。保護者参加行事は分散開催で実施。また、コロナ禍で中止していた保育園幼稚園交流事業は、2か所の園との間で直接交流を再開した。

2 利用児の状況と活動内容

(令和5年3月31日現在 単位：人)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ利用人数	292	301	385	227	288	312	330	296	332	264	300	319	3646

(1) 通園を利用した子どもの概況 年間を通じた状況

①年齢別利用児数

(令和5年3月31日 単位：人)

	3歳児(年少)	4歳児(年中)	5歳児(年長)	合計
男児	5	1	10	16
女児	0	2	4	6
合計	5	3	14	22

②障害程度別利用児数

(令和5年3月31日現在 単位：人)

		愛の手帳					
		1度	2度	3度	4度	等級不明	なし
身障手帳	1級	0	0	0	0	0	1
	2級	1	0	0	0	0	1
	3級	0	0	0	0	0	1
	4級以下	0	0	0	0	0	1
	等級不明	0	0	0	0	0	0
	なし	0	1	1	3	0	10

(2) 行事等 (通園関係)

行事名	月日	行事内容
入園式	4/8	入園式・保護者
保育園・幼稚園との交流	11/18	吉祥寺保育園
	12/5	武蔵野中央幼稚園

親子遠足	10/28	屋内・冒険の島ドコドコ（立川）へ
家族参観日	6/18	家族参観
	12/17	お楽しみ会
季節行事	7/8	あそぼうデー
	9/9	運動会
	1/25	ミニコンサート（保護者参加なし）
誕生会		該当月の誕生祝い（保護者参加なし）
プール		屋外プール（7月～8月）
卒園式・お別れ会	3/28	卒園式（就学13人、転園1人）
避難訓練	9/17	こども館全体訓練2回
	3/18	災害時伝言ダイヤル訓練2期間
保護者会		年に3回実施（7月、12月、3月）
個別面談		年に3回実施（6～8月、11～12月、2～3月）
入園説明会	3/4	事業説明・利用契約・インテーク等
パイプオルガン体験	10/14	在園児・保護者が参加

3 他機関との連携・協力等

- ・教育委員会：通園児の実態把握表の作成・提出、個別行動観察の受け入れ
- ・他療育機関：並行利用児の幼稚園訪問・電話連絡、市内児童発達支援事業所連絡会への参加
- ・子ども家庭支援センター：ケースについての連絡・協力
- ・特別支援学校：卒園児に係るカンファレンス、学校からの訪問受け入れ等
- ・図書館読み聞かせの会事業への協力
- ・保育実習生の受け入れ（5件）、ボランティア受け入れなし
- ・武蔵野市子ども協会学童クラブ職員の派遣研修受け入れ（8名）
- ・きょうだい交流会への参加
- ・利用児のサービス提供時間外預かり：13件

4 職員研修

- （1）事業所研修／音楽療法まとめ
- （2）館内研修／ケースカンファレンス、消火・通報講習、保護者相談スキルアップ研修
- （3）外部研修／プール活動事故防止講習、摂食・嚥下指導講習会、府中療育センター地域療育講習会、三鷹市子ども発達支援センター公開療育、東京学芸大学附属特別支援学校・研究協議会、ハビット発達基礎コース、権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化研修

5 苦情受付件数 1件

6 人権擁護虐待等受付件数 0件

12 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 相談部ハビット

1 事業運営

みどりのこども館では主として療育相談事業、ハビットサテライトでは主として計画相談事業を実施した。

療育相談の新規受付件数、継続相談件数ともに増加した。

継続相談件数は昨年度より 1,200 件超増加しているが、相談実人数は昨年度 858 件から今年度 869 件へと微増であり、療育相談事業と計画相談事業をほぼ専門化したことによる、1 件あたりへの丁寧なフォロー体制構築に繋がった。また、通所受給者証申請にあたり、これまでは療育相談から計画相談へフォローが移行していたが、計画相談へ移行せずに療育相談を継続するケースが増えたことも、件数増加に影響している。

妊娠期からの切れ目のない支援、多問題家庭への対応増加により、主管課である障害者福祉課以外に健康課、子ども家庭支援センター、教育支援センターなど、子ども関連機関との連携も活発化しており、関係機関からの療育に関する相談は 1,017 件であった。

健康課フォロークラス（健康課主催の経過観察グループ）への職員派遣を継続。顔の見える関係作りを目指し、4 名の職員をローテーション派遣した。

子育て支援、発達支援に関わる機関との連携強化及び役割分担を目的として、子ども家庭支援センター、教育支援センターそれぞれとの合同研修を 2 回ずつ実施した。

子どもと子育て世代への切れ目のない支援体制作りに向けた、子育て世代包括支援センター、教育支援センターとの 3 センター合同連絡会、3 センター合同研修に参加した。

2 事業内容（令和 5 年 3 月 31 日現在の実績数）

(1) 療育相談事業

新規相談	371 件（うちサテライト 14 件）
受理面接（初回面接）	202 件
継続相談	3,311 件（うちサテライト 575 件）
医療相談	28 件（18 回実施）

(2) 親子通園事業

グループ数	登録者数	実施回数	延参加者数
1	4	10	23

(3) 施設訪問事業

保育園・幼稚園	99 件
学校	92 件
その他	77 件

(4) 計画相談支援

計画作成	18 件（うちサテライト 18 件）
モニタリング作成	964 件（うちサテライト 920 件）
計画相談・モニタリングに関する相談	1,102 件（うちサテライト 1,070 件）

(5) その他

① 家族支援

- ・保護者会…就学に向けた保護者会は学校種別・学級別で4回、児童発達支援事業利用に向けた保護者会を1回実施
- ・きょうだい交流会…令和3年度延期分1回、令和4年度分2回実施

②地域支援

- ・研修事業…ハビット地域支援講習会 発達基礎コース（全9回）／毎日型児童発達支援事業利用保護者向け講座（言語聴覚士）／武蔵野のびのびプロジェクト講演会（公認心理士）、チャレンジルーム講義（理学療法士・作業療法士）
- ・ハビット×ぐるりん（年3回）…ハビットの専門職による利用者向けミニ講座と相談
- ・特別支援教育事業（随時）…特別な支援が必要な児が在籍する市内幼稚園からの武蔵野市補助金申請に対する園訪問及び意見書作成
- ・地域型保育事業に係る障害児加算意見書作成（随時）

③関係機関連携

- ・発達健康診査（健康課事業）に社会福祉士・理学療法士を派遣（15回）
- ・健康課フォロークラスにコーディネーターとして4名派遣
- ・子ども家庭支援センターとの実務者連絡会（隔月開催）、子ども家庭支援センターとの合同研修（2回）
- ・教育支援センターとの合同研修会（2回）
- ・3センター合同連絡会（4回）、合同研修会（2回）

3 苦情受付件数 0件

4 人権擁護虐待等受付件数 1件

13 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 相談部ハビットサテライト

1 事業運営

みどりのこども館相談部ハビットのサテライトオフィスとして主に計画相談を実施した。西部地域住民の利便性向上のため、療育相談および計画相談の来所による相談を案内し、昨年度の10件から今年度31件に増加した。

これまでハビットとハビットサテライトの両方で行っていた計画相談のほとんどをサテライトで実施することで、計画相談に従事する職員一人当たりが担当する件数は増加したが、専業化し効率的な事業運営を進めた。その結果、ハビット全体での相談件数増加につながった。武蔵野市役所担当課からの要請に応じ、障害者福祉課主催担当者会議、子ども家庭支援センター主催担当者会議に参加した。

2 事業内容

- ・開所日 月～金 月1回土曜日に相談を実施
- ・受付時間 9:00～17:00

(1)療育相談事業

- ・対象 0～18歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・保育士・事務員（非常勤）
- ・内容 心身の発達に心配のある子どもに対する家庭での支援・生活指導・関係機関との調整

(2)計画相談支援

- ・対象 0～18歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・保育士・事務員（非常勤）
- ・内容 法内障害福祉・児童通所サービス等の利用に関するプラン作成、モニタリング等

3 苦情受付状況 0件

4 人権擁護虐待等受付件数 0件

【令和4年度 実績数】ハビットサテライト

療育相談	新規相談	371件（うちサテライト14件）
計画相談	計画作成	18件（うちサテライト18件）
	モニタリング作成	964件（うちサテライト920件）
	計画相談・モニタリングに関する相談	1,102件（うちサテライト1,070件）

14 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 おもちゃのぐるりん

1 事業運営

武蔵野市内在住の親子が自由に来館し、遊べる場を提供している。子どもの遊び場であり、保護者の交流の場となっている。常駐の職員がいることで気軽に子育ての相談ができ、また必要に応じて児童発達支援センター相談部ハビットと連携し、療育相談につなげている。

今年度は、4月から9月までを予約ありの10名定員制とし、10月から3月までは社会状況を考慮しながら予約不要の定員制とした。前年度に引き続きおもちゃ病院、手作りおもちゃ、ワークショップなどは、感染防止対策をしながら安全に実施できるよう努めた。

コミセン親子ひろばや保育園で行われているあかちゃんのひろばにおもちゃを20点程度持参する出張ぐるりんについてはコミセン親子ひろばや子育て支援施設のイベントとして月1回の頻度で実施した。

「手作りファースト・トイ」(妊娠6ヵ月の方から生後5ヵ月までの子どもと保護者対象)は、対面(5組限定でひろば貸切)にて年5回開催した。(なお、この事業の運営は武蔵野市子ども協会に委託している)

2 事業内容

- ・事業 子どもと保護者がおもちゃで自由に楽しく遊べる場の提供
- ・対象者 市内在住の未就学児と保護者
- ・利用料 無料
- ・開館日 火～土の週5日間(日・月・祝日は休み)
- ・開館時間 10:00～16:00 ランチタイム 12:00～13:30
 ※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入替制(10:00～12:00、14:00～16:00)各定員10名とした。また、ランチタイムは引き続き休止となった。
- ・スタッフ 子育て支援員 正規職員2名 嘱託職員1名 アルバイト4名
 *支援員は保育士・幼稚園教諭いずれかの免許取得者、アルバイトスタッフは無資格者有
- ・おもちゃの在庫数 約300種類あり季節ごとのテーマに合わせて常時70～80個を用意している。
- ・その他の実施事業
 手作りおもちゃの会・季節の手作りおもちゃや工作の催し・貸出し事業・おもちゃ病院(おもちゃ修理)・畑での体験・外部講師によるワークショップ・ボランティアによるおはなしひろば及び催し・ハビット×ぐるりん・みどりのこども館看護師と話そう!・らびっとひろば

3 活動実績

- ・開館日数 241日(前年度247日)
- ・利用児総数 3217人(前年度3554人)
- ・平均利用児童数 1日:13.3人(前年度14.4人)
- ・ひろば相談(随時対応) 182件

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	その他	合計
利用児数	665	845	541	410	279	294	125	58	3,217

*その他は小学生の兄弟姉妹等

4 年間実施行事

(1)参加人数等

(令和5年3月31日現在 単位:人)

手作りおもちゃの会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、工作キット配布(4～9月)							
4月 1ヶ月	100人	7月 1ヶ月	88人	10月第2週	37人	1月第2週	62人
5月 1ヶ月	100人	8月 1ヶ月	100人	11月第2週	69人	2月第2週	35人
6月 1ヶ月	80人	9月 1ヶ月	99人	12月第2週	67人	3月第2週	63人

ハビット×ぐるりん(ハビット職員によるミニ講座と座談会)定員8組(ひろば貸切にて実施)		
5月31日	イヤイヤにイライラ…どう対応する?(公認心理師)	3人
9月22日	ハサミやえんぴつ、スプーンやお箸が上手に使えるようになるには?(作業療法士)	5人
1月28日	知っておきたい!乳幼児の体を使った遊び(理学療法士)	8人

みどりのこども館看護師と話そう(子育てに関するミニ講座と座談会)		
7月14日	看護師と話そう♪季節のライフ&ケア	4人
10月27日	看護師と話そう♪季節のライフ&ケア	4人

その他のイベント					
4月	手作りファースト・トイ 母の日プレゼントキット配布	5人 58人	10月	手作りファースト・トイ お庭で作って遊ぼう	3人 19人
5月	やさいを植えよう	3人	11月	お庭で作って遊ぼう	6人
6月	父の日プレゼントキット配布 シャボン玉で遊ぼう	57人 33人	12月	手作りファースト・トイ お庭で遊ぼう～カッピーライダーで遊ぼう	4人 3人
7月	手作りファースト・トイ	8人	1月	ゲームの日 WS けん玉名人と遊ぼう 節分工作キット配布	18人 13人 50人
8月	センサーロボットづくり	16人	2月	ひな祭り工作キット配布 お庭で遊ぼう～カッピーライダーで遊ぼう	57人 9人
9月	敬老の日プレゼントキット配布 WS WAKU-BLOCKで遊ぼう ゲームの日	100人 12人 20人	3月	手作りファースト・トイとお話し会 祝・卒園★アイロンビーズで飾りを作ろう	6人 13人

- ・おもちゃ病院 (原則第4土曜日に開催) 実施回数:12回修理おもちゃ数:213件
おもちゃ病院協会のドクター養成講座に参加したおもちゃドクター6名が、壊れたおもちゃを無償で修理(材料費のみ個人負担)。個人・施設からの修理依頼を受付。
- ・おはなしひろば (毎月1回)※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止→次年度手作りファースト・トイと同時にを行うトライアルとして3月に1回実施
- ・初めまして♪ぐるりん (年2回) 実施回数:2回 参加人数:合計4人
初来館者対象のぐるりんの紹介及び利用説明会。
- ・おもちゃの貸出し (毎週水・土曜日) 貸出し数:1,660件 登録者315人
子ども一人につきぐるりんの貸出しおもちゃ約140点の中から1点、1週間の貸出し
- ・出張ぐるりん (基本月1回開催) 実施回数:14回 参加人数:186人
- ・らびっとひろば (年7回開催) 参加人数:18人
ハビット利用児を対象とした親子ひろば(グループ活動時からスタッフが入る形となり、グループと連携させた形で実施)
- ・みどりのこども館あそぼうデー 事前予約、定員入替制にて実施

(2) 広報活動

- ・ぐるりんだよりの発行 偶数月に1,000部発行
保育園等市内施設に設置:配布箇所74施設
- ・ホームページやツイッターによる情報提供 ホームページ随時更新
令和4年度 ツイート数:226 ツイート フォロワー:559人(令和5年3月末現在)

15 居住支援ユニットリエゾン

1 事業運営

安定した生活を継続するべく、利用者個人の主体性を尊重し、各利用者の暮らしのスタイルを尊重した生活を支援した。安定した生活を維持していく一方で、特に今年度は早々に新型コロナウイルス感染症の感染拡大が各ユニットや所属職員に影響を与え、複数の利用者職員との陽性者が出たユニットでは、支援体制を維持することが困難となり、臨時休業とした。

昨年度に引き続き、家族の高齢化による健康問題や介護力の低下により、実家への帰宅時の生活が不安定な方が増えている。週末帰宅を見合わせる方、成年後見人制度の活用を始めた方も徐々にではあるが増加の傾向にある。

2 利用者の状況と支援内容

(1) 利用者の入居状況(令和5年3月31日現在 入居者合計 53名)

- ・せきまえハウス 男性6名
- ・きたまちハウス(2階) 男性8名
- ・きたまちハウス(3階) 男性7名
- ・くすの木(1階) 男性4名
- ・くすの木(2、3階) 男性9名
- ・かしの木(南館) 女性10名
- ・かしの木(北館) 女性9名

(2) 利用者数

	前年度	入所	退所	合計
男性	34	0	0	34
女性	19	0	0	19
合計	53	0	0	53

(3) 年齢別利用者数

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	5	8	12	7	2	0	34
女性	0	5	9	3	2	0	19
合計	5	13	21	10	4	0	53

(4) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	手帳なし	計
身障手帳	1級	0	1	0	1	1	3
	2級	0	1	0	2	1	4
	3級	0	0	0	0	0	0

	4級以下	0	1	1	0	0	2
	身障手帳なし	0	20	17	7	0	44
	計	0	23	18	10	2	53

(5) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	8	10	18	12	5	53

(6) 利用日

年未年始を含めて通年利用

(7) 通所方法

本人単独で通勤・通所している方37名、通所施設の送迎を受けている方16名

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 14,543人(利用サービス日数 365日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1,189	1,170	1,313	1,224	1,172	1,249
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,262	1,144	1,186	1,163	1,138	1,333

(9) 活動全般

- ・年未年始も含め年間を通じた入居者の利用があった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、支援体制の維持が困難となり、利用自粛や一部閉鎖したユニットがあった。

(10) 保健・食事

- ①健康管理：健康診断（1回）、歯科検診、インフルエンザワクチンの集団接種(10月)
- ②食 事：七福の配食サービス、外部の配食サービスを併用して利用した。また、引き続き、入居者の好みに応じた「お楽しみメニューの日」を設定やディナーの設定も行った。
- ③通 院：必要に応じて通院の付き添いを実施した。

(11) 家族関係

事前アンケートで希望をとり、対面又はオンラインを活用して面談を実施した。家族の健康状態を考慮し週末利用が増加したため、可能な範囲で対応した。

(12) 見学者

受け入れを緩和したが、実績は数件であった。

(13) 制度利用の支援

訪問看護(4人)、訪問リハビリ(介護保険：1人、他1)、介護機器(介護保険：2)、訪問診療(3人)などの制度利用のために、引き続き各事業者と連携した。

(14) 消防機器設備の定期点検の実施

各グループホームの自動火災報知設備と自動通報設備の定期点検(年2回)を行った。

(15) 防災訓練の実施

各グループホームにおいて、避難、消防設備の使用の確認、機材の使用確認など、複数回実施した。また、きたまちハウスにおいては、建物がワークステージりぷると同一の為、共同して、北町ほっと館として1回避難訓練を実施した。

(16) チャレンジ自立生活事業

事業運営について、きたまちハウスの短期入所事業で活用する居室とグループホームかしの木北館の居室を活用し、「チャレンジ自立生活事業」を実施した。コロナ禍の状況から、約2年間の事業中止を経て、来年度の布石となるように、1月から3月までの3か月間に各月男女1名ずつ合計6名の方に自立生活の体験をしていただいた。

3 地域関連機関や団体との連携

武蔵野市自立支援協議会地域移行部会、千川地域社協へは役員(監査)、桜野地域社協、関前地域社協へは運営委員を派遣した。昨年度までは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、書面開催が中心であったが、対面での開催が緩和されたため、積極的に派遣を行った。

4 職員研修

(1) 法人研修

入職3年目研修に3名が参加した。

(2) 外部研修

東京都が主催する、「強度行動障害支援者養成研修」に1名、「グループホーム基礎研修」に2名が参加した。

(3) 内部研修

12月に実施。発表者を次年度に法人の入職3年目研修を予定している職員1名が担当した。テーマを決めて発表し、グループワークも実施した。

(4) 人権擁護・虐待防止研修

2月に外部講師による研修をオンラインで実施した。当日に参加ができなかった職員向けに動画配信をし、全職員が研修に参加できるようにした。

5 苦情受付件数 0件

6 人権擁護虐待等受付件数 0件

16 武蔵野市障害者福祉センター

1 事業運営

在宅心身障害者の通所訓練施設として昭和55年12月3日開設。障害のある方々が地域との相互理解と連帯を深めながら、各種事業を通じて社会参加と自立を目指し障害福祉の増進を図ることを目的として運営してきた。平成29年度からは指定管理者制度を導入し、社会福祉法人武蔵野が施設管理とともに生活リハビリサポートすばる（自立訓練・生活介護）や障害者相談支援事業所ほくと等の事業所を一体的に運営している。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら部屋貸し事業は定員、時間帯ともに通常に行った。各部屋での飲食は引き続き禁止。調理室の貸出しは空調機器や給湯機器の故障により中止。講習会に関しては引き続きコーラス、パーカッションなどの音楽系の講習会は中止とし、3年度に中止していたボッチャは再開した。センター講演会についてはスイングビルのレインボーサロンにて行った。

生活リハビリサポートすばるの自立訓練（機能訓練）、生活介護では引き続き新型コロナウイルス感染症による利用控え等があるものの、新規利用者の増加など回復の兆しが見えてきている。

2 部門別報告（令和5年3月31日現在の実績数）

（1）管理部門

①部屋貸し（地下会議室、調理実習室、印刷室、録音室、視聴覚室）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	39	33	40	45	20	32	41	34	29	36	27	47	423
延人数(人)	206	190	252	213	86	185	264	199	199	203	199	262	2,458

（感染症対策のため調理実習室の貸出しは行わなかった）

②通所移送事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延人数(人)	374	402	453	377	368	404	413	394	407	364	389	406	4,751

③障害者講習会（エアロビ、美術、太極拳、将棋、体操、椅子に座ってヨガ他）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延人数(人)	0	58	59	54	0	54	55	56	59	51	45	18	509

④医療相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	18	19	25	26	24	23	22	22	28	21	27	33	288

⑤行事・地域活動等

- ・センター講演会
令和5年1月21日(土) 出席者 会場名 スイグホールレインボーサロン
「手話の魅力」~ろう者が暮らしやすい社会 参加者 83名
- ・障害者福祉センター運営協議会
第1回 令和4年7月28日 令和3年度障害者福祉センター実績報告について
第2回 令和5年3月29日 令和5年度事業計画について
- ・安全対策連絡会議 2回 (9月27日、2月21日)
- ・避難訓練 2回 (10月3日、3月2日)
- ・千川福祉祭り、千川地区社協、サロン千川は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった
- ・あったかまつり(10月14日)にエコリゾートにて作品展示で参加
- ・東部福祉の会「暮らしの情報展」(11月13日)(東部フェスティバルの縮小版)に参加
- ・千川地域防災会の役員会(令和5年1月25日)に参加
- ・はちコミまつり(10月15日、16日)に作品展示で参加

⑥職員研修

- ・情報セキュリティー研修(内部研修)
- ・令和4年度虐待防止権利擁護研修(内部伝達研修)
- ・ハラスメント研修
- ・心のバリアフリー研修会
- ・その他(施設長研修、中堅層研修など)

(2) 相談部門

①専門相談

ア) リハビリ相談(住宅改修、補装具等 電話、来所、訪問など) (延人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
専門相談	68	58	90	114	69	59	69	63	88	60	89	108	935

- ・心のバリアフリー啓発事業の講師派遣
- ・同行援護従事者研修の講師
- ・武蔵野市バリアフリー工事への助言

イ) ゆいっと相談件数(高次脳機能障害) (延人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談 (来所・電話・訪問)	130	130	168	152	172	155	146	137	127	127	132	126	1,709
上記内サロン	13	11	10	11	10	11	14	6	6	12	12	14	130

- ・高次脳機能障害関係機関連絡会 年2回 事務局機能としての活動
- ・高次脳機能障害関係機関連絡会運営委員会 年5回

- ・北多摩南部医療圏 高次脳機能障害者支援普及事業
 - *北多摩南部医療圏高次脳機能障害支援者研修会にて「ゆいっとの支援のつながり」について発表
- ・市区町村高次脳機能障害相談支援員連絡会

ウ) 視覚障害専門相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談(来所・電話・訪問)	82	64	84	94	53	71	72	75	85	78	84	49	891
内点字教室	13	13	13	12	7	13	13	9	13	11	6	12	135
内地域生活学習会	0	0	5	10	0	0	8	0	0	0	0	0	23
バリアフリー相談	1	4	3	2	8	3	3	8		3	7	4	49

- ・同行援護従事者養成研修会 講師
- ・同行援護従事者フォローアップ研修 講師
- ・心のバリアフリー啓発事業 講師
- ・武蔵野市バリアフリー工事、印刷物等への助言
- ・第2回地区別ケース検討会 講師

②特定計画相談

- ・実績

障害別	契約者数 (延べ)	計画作成数 (延べ)	モニタリング実施数 (延べ)
視覚	46	40	123
高次脳 他	21	19	54
身体	20	26	51

(3) 通所部門

①自立(機能)訓練(通所および訪問によるリハビリテーションサービス)

午後1時～4時 毎週月～金 1日の定員 10名

- ・実績 (延人数) 平均 3.9人/日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
自立訓練	通所	70	53	57	38	43	61	70	56	65	63	70	75	721
	訪問	2	4	1	4	6	4	6	1	5	1	2	1	37
市単(通所)	28	24	20	5	13	15	16	15	16	22	12	8	194	
計	100	81	78	47	62	80	92	72	86	86	84	84	952	

・利用者の状況

(性別/年齢) 令和5年3月31日

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	0	2	0	10	2	0	14
女	0	1	0	3	0	3	1	8
計	0	1	2	3	10	5	1	22

(障害手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複 (視覚・精神)	重複 (肢体・精神)	重複 (肢体・知的)	精神	なし
人数	12	2	0	1	0	2	5

②生活介護（通所デイサービス）午前10時～午後4時 毎週月～金 1日の定員10名

・実績

平均4.7人/日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	98	90	101	95	99	96	99	85	93	78	101	114	1,149
市単独	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	98	90	101	95	99	96	99	85	93	78	101	114	1,149

・利用者の状況

(性別/年齢)

令和5年3月31日

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	0	3	0	2	2	0	7
女	0	1	1	2	1	0	0	5
計	0	1	4	2	3	2	0	12

(障害者手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複 (視覚・精神)	重複 (肢体・精神)	重複 (肢体・知的)	精神	なし
人数	5	1	0	4	1	1	

3 苦情受付件数

2件

4 人権擁護虐待等受付件数

2件

17 わくらす武蔵野

1 事業運営

障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野の実施事業は、障害者総合支援法上の施設入所支援、生活介護（日中活動）、短期入所、行動援護、相談支援のほか、武蔵野市単独事業のショートステイ事業（なごみの家）、貸館事業などである。また、武蔵野市第6期障害福祉計画（重点3）に示されている地域生活支援拠点について、令和5年度の事業開始に向け、武蔵野市や自立支援協議会、市内の関係団体と連携、協議を図り地域における本事業の整備について準備を進めた。

新型コロナウイルス感染症については、6月、8月、2月に感染が拡がり。その都度保健所の訪問指導などを通じて感染対策の見直しと強化を図った。

施設入所支援について、令和4年度は退所者0名、入所者1名であった。入所者用居室38床のところ、現在37名が入所となっている。このほか体験入所用の居室が2床あるが、令和4年度は新型コロナウイルス感染対策として実施しなかった（令和5年度事業再開予定）。

生活介護について、令和4年度は入退所者0名であった（現在利用者数は39名/定員50名）となっている。

短期入所・なごみの家事業については、令和4年度も引き続き感染対策のためユニット内の短期入所スペースでの受け入れは制限し、3階の生活スペースを中心に受け入れた。

貸館事業（オリーブホール）については、市の公共施設の貸し出しルールを参考に事業を継続し、2団体のべ38件の貸し出しを行った。

2 利用者の推移

（令和5年3月31日現在 単位：人）

(1) 施設入所支援

年度	令和2	令和3	令和4
利用者数	36	36	37

(2) 体験入所

年度	令和2	令和3	令和4
利用者数	2	0	0

(3) 生活介護（通所利用者）

年度	令和2	令和3	令和4
利用者数	4	4	4

(4) 行動援護

年度	令和2	令和3	令和4
利用者数	1	1	1

(5) 計画相談

年度	令和2	令和3	令和4
利用者数	39	39	40

(6) 短期入所

年度	令和2	令和3	令和4
利用者数（市内）	15	16	17
利用者数（市外）	0	0	0

月別利用件数（件数は1日単位）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期入所	0	0	0	14	0	0	0	0	18	30	31	10	103

(7) なごみの家

年度	令和2	令和3	令和4
利用者数	31	57	58

月別利用件数（件数は1日単位）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
なごみの家	11	0	6	3	1	1	4	10	7	7	3	5	58

3 地域関連機関や団体との連携

貸館事業

- ・4chu-caféの会（オリーブホール）「自習室」
年間 20 回開催
- ・サニーママ武蔵野（3 階、オリーブホール）「コミセン親子ひろば」
年間 18 回開催

月別利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	2	2	2	4	4	4	4	4	3	4	3	2	38

4 職員研修

- ・口腔ケア研修 25 名
- ・令和 4 年度東京都強度行動障害支援者養成研修（基礎研修） 6 名
- ・熱中症予防講演会 1 名
- ・管理職員研修 2 名
- ・喀痰吸引研修 1 名
- ・相談支援従事者研修 1 名
- ・ファシリテーション研修 3 名
- ・ハラスメント防止研修 7 名
- ・感染症予防研修（東社協） 6 名
- ・ご家族とのコミュニケーション（ご家族の思いとその対応） 2 名
- ・福祉現場におけるメンタルヘルス講習会 3 名
- ・続利用者さんが飲んでいる薬を知ろう 1 名
- ・通所施設での作業を考える 11 名
- ・令和 4 年度虐待防止研修 43 名
- ・高齢者介護の基礎知識研修 39 名
- ・感染症研修「新型コロナウイルス感染症防止対策総点検」 3 名
- ・福祉職のための医療的ケア 1 名
- ・大人の発達障害・発達障害の理解と支援 1 名
- ・高齢、知的障害者の食事とその支援について 2 名
- ・アドラー心理学に基づく勇気づけのリーダーシップ 1 名
- ・強度行動障害支援マネジメント「強度行動障害と医療」 1 名
- ・東社協虐待防止研修「障害者虐待防止法の理解と身体拘束適正化について」 2 名
- ・OT心理士研修「ケースを担当するといことは」 34 名
- ・OT心理士研修「行動をデザインする」 36 名

5 苦情受付件数

7件

6 人権擁護虐待等受付件数

0件

7 その他

- ・武蔵野市地域自立支援協議会親会委員派遣
- ・武蔵野市地域自立支援協議会地域生活支援拠点部会委員派遣
- ・こころのバリアフリー啓発事業（市民社協）講師派遣
- ・東京都地域移行促進コーディネーター事業委員派遣

18 武蔵野市桜堤ケアハウス

1 事業運営

武蔵野市桜堤ケアハウスの1年間の利用者動向は退所者が3人、新規入居者は2人となった。また60代入居者が2名、70代入居者2名、80代以上の入居者が19名と高年齢化が進んできている。以前から入居されている方々には、軽度知的障害、理解力・記憶力等の低下などの精神・認知機能に障害がある方もいる一方、コロナ禍の影響でフレイル状態、とりわけ下肢筋力、咀嚼・嚥下機能の低下、人と接する機会が極端に減り認知機能の低下を有する入居者が増え、入居者同士の良好な人間関係を保てない方も増えてきており、身の回りの世話や生活相談などの支援力が求められている。このような状況下において、その人らしさを大切に、良好な関係を築きながらケアハウス及び地域での生活を継続できるよう、個々の心身の状態に合わせた相談支援を行っている。

2 利用者の状況

(1) サービス提供形態と利用実績

サービス種類：軽費老人ホーム(ケアハウス)		延べ利用者数	利用率
定員	29名(個室25室・2人部屋2室)	8,578名	81.0%

(2) ケアハウス利用者の状況について

① 入退所状況

(人)

	令和4年度当初	退所	入所	令和4年度末
男性	9	1	1	9
女性	15	2	1	14
合計	24	3	2	23

*退所者3名は他施設への転居

② 年齢構成等

<平均年齢>

(歳)

区分	男性	女性	全体
平均年齢	82.30	88.21	85.88

<年齢構成>

(令和5年3月31日現在・23人)

	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	100-	合計
男性	0	1	1	1	1	2	3	0	0	9
女性	0	1	0	0	2	3	5	2	1	14
合計	0	2	1	1	3	5	8	2	1	23

③ 要介護認定状況

※総合事業対象者は、令和4年度当初0名、令和4年度末0名

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護
令和4年度当初	0	0	9	3	1	2	0	1.73
令和4年度末	0	1	6	5	1	0	1	1.88

④ 外部サービス利用状況 *重複あり (令和5年3月31日現在・23人)

性別	ホームヘルプサービス	通所系サービス	訪問看護	訪問リハ
男性	5	4	2	1
女性	4	4	2	0
合計	9	8	4	1

3 その他の実績

(1) ボランティア

ボランティア活動延人数：152名（手作りの会・傾聴・活動補助・配食）

配食件数：延べ343件（おせち3食含）

(2) 多世代交流としてスペース提供（乳幼児・児童等と入居者との交流機会）

平成30年度から3階・和室を、月曜から金曜日の平日（祝祭日除く）の午後には、市内の小・中学生を対象に学習教室の場所として無償で貸し出している。

金魚や亀を飼っている正面玄関脇の池は、近隣の小規模保育室・保育ママさんの乳幼児たちの散歩コースとして開放し、定期的に交流を図っている。また入居者が作成した手作りマスクや雑巾を近隣の保育園や小学校に寄贈し間接的交流に努めた。

(3) 傾聴ボランティアの導入

長引くコロナ禍で人との関わりが限定され閉塞的な生活が続き、フレイル状態になる方が増えた。感染予防の観点から不特定多数の方との交流は難しいが、社会との繋がりを維持するために傾聴ボランティアの導入を検討。ボランティアセンターや市報への掲載で10名ほどの応募があり、現在は4～5名が毎週・隔週で活動を開始し、入居者のフレイル予防に繋がっている。

(4) 持ち帰り弁当（仮称）

「地域社会に役立つ」取り組みとして、地域で開催される高齢者向けの講座や会合などで、持ち帰り弁当の販売を企画し、2月に開催した民生委員定例会で試行的に販売を行った。購入された方にアンケートを実施し、出された意見や提案を次の機会に反映させていく。

4 食事提供、健康管理等

(1) 食事提供状況

利用者の食事形状では下表のような状況がみられている。

常食	23	粥・おかず普通（きざみ等）	0	(令和5年3月31日現在・23名)
----	----	---------------	---	-------------------

日々の健康状態を食事摂取状況からも把握ができるため、調理部門職員と生活相談員とが連携する。基本的に常食で提供するが体調不良時（コロナ関連等）は調理部門職員と相談、本人の意向を確認し一時的に粥食を提供した。

行事・伝承食（伝統的文化食）や海外のメニューも組み入れ、季節感のある食事の提供を行った。また「ご意見箱」の活用や食事アンケートの結果など栄養士が直接、入居者から意見を聞きとりし、そのリクエストを随時献立に反映した。主食や主菜は入居者の好みや身体状況に応じて提供料を変えている。さらにコロナ禍で外出制限のある中、少しでも楽しみもてる食事になるよう、ホットプレートを使用し入居者の前で焼くお好み焼き、焼き鳥やトウモロコシなどの縁日メニュー、イチゴをカットしサンタクロースに見立てる等、視覚と音を通して楽しめるメニューの創意工夫を行った。

(2) 健康管理等の状況

入居者自身の病識の低さや服薬管理が難しい入居者へは、介護サービス（訪問看護）利用の提案や定期的に健康相談の利用を勧めた。また、安心・安全な日常生活を送って頂けるよう、コロナ禍の中で心身機能及び日常生活動作の維持向上を目的に、さわやか健康クラブでは専門の講師を招いての介護予防体操を月1回、定期開催し入居者のフレイル予防に努めた。今年度は5月に体力測定を実施、日々の生活の中でも歩行機会やラジオ体操への参加を周知し、体力・筋力維持を目標とした。年度途中の11月と年度末の3月にも体力測定を実施し、5月の数値を大きく下回る入居者はおらず、日々の積み重ねが重要であることを各自実感していた。

5 相談支援等

入居者の高齢化、虚弱化、さらに、理解および記憶の機能低下等により、集団生活上のルール、マナーなどが守れなくなってきた方が増えており、入所者間でのトラブル、人間関係上の精神的な抱え込みも多くなっている。そのため、一人ひとりの状況に合わせた相談支援や関係機関との調整を図り、また家族（保証人）とも連絡を取り合いながら対応している。

保証人の高齢化や保証人不在、家族が課題を抱えているケース、亡くなられた方や疎遠となられているケースも増えてきており、現状の経済面に関する支援や入院時の身上監護、次の生活の場に向けて、適切な関係機関と連携した支援の必要度が増してきている。この他に、昨年度から入居者全員に対して、入居者の日常生活における要望などを伺い、ケアハウスで「安心・安全な生活」が送れるよう個別支援計画書を作成している。

健康管理・疾病等に関すること(体調管理、通院介助、医療機関との連絡調整など)	360件
日常生活全般・精神的なケア(食生活・住環境等の生活面、人間関係調整等)	1,337件
介護保険等の制度利用に関すること(制度の紹介や申請・手続き、関係機関への繋ぎ)	92件

6 各種事業実績

(1) 年間行事の実施状況

(人)

行事名	実施日	行事内容	参加人数
入居者個別面談	5月上旬から6月下旬にかけて実施	入居者と職員の個別相談	24
新茶を楽しむ	5/27・6/7	昼食時の配茶時に新茶をふるまう。	延べ37
七夕行事	6/23～7/8	少人数で飾り作りや飾り付けを実施 昼食にはちらし寿司とそうめん汁を提供	延べ10
ミニ縁日	7/12	夏の雰囲気を楽しんでもらいながらの昼食 (焼きそばやトウモロコシ、ラムネや駄菓子)	21
夏の夕食会	7/28	季節感を楽しんでいただく食の提供 (握りずし、茶わん蒸し)	22
選べるアイスの日	5/20. 6/2. 6/15 8/1. 8/10. 8/12	昼食時にカップアイスや棒アイスなど数種類準備し、その場で選んで頂く機会の提供	延べ77
選択食	8/19. 10/6	事前にポスターで周知し、当日その場で2種類のメニューから選んで頂く。	延べ40

敬老の会	9/18	昼食時に賀寿のお祝い・お祝い膳	22
デザートバイキング	11/10	4種類のケーキと2種類の果物のバイキング	22
冬の夕食会	12/26	夕食時にクリスマスメニューやケーキのデモンストラーションを楽しんでいただく機会の提供	22
季節の湯	12/22	冬至の日に希望者にゆずを配布	19
お役立ち講座	11/10.1/19/ 2/9	近隣の訪問看護事業所と共催し、フレイルについての講座と実演	28
新年のお祝い膳	1/1	昼食の際に新年会を実施	21
節分(豆まき)	2/3	昼食時に節分豆と甘納豆を配布し、1階正面玄関前での豆まきを実施	延べ32
キッチンカー	3/9	新しい形でのお花見機会の提供。キッチンカーで焼きたてのパイやマドレーヌなどを購入	延べ22

(2) 趣味活動、他の実施状況

活動名	活動回数(実施月)	活動概要、他
さわやか健康クラブ	月1回	体操のインストラクターによる健康体操 年度内で3回の筋力測定実施
手作りの会	月1回(中断あり)	地域のボランティアによる小物づくり教室
入居者懇談会	年6回(偶数月実施)	入居者と職員による懇談会 (行事等の案内、利用上のルール等確認)
避難訓練	年6回 (5・6・8・10・12月)	学生寮生と合同の夜間、日中・夜間想定防災訓練 (今年度もコロナ禍で学生は不参加)
健康相談	週1回	配置医師による健康面、持病等に関する相談

7 入居者の募集・選考、入居の問い合わせ

(1) 募集・選考

令和4年6月に2人部屋・2部屋と個室・1部屋の募集を行った。2人部屋の応募は0組で、個室は6月上旬に1部屋空床が出たため2部屋に対し7名の応募があった。抽選の結果、9月に1名、10月に1名が入居した。

令和4年11月に2人部屋・2部屋の募集を行い、問い合わせはあったが利用申込はなかった。

令和5年2月に2人部屋・2部屋と個室・1部屋の募集を行った。1月末に個室・1部屋の空床が出たため、2部屋に対し6名の応募があり、2人部屋は1組の応募があったが面談直前にキャンセルされた。

*年間通して、在宅介護・地域包括支援センターへの入居募集の紹介などを行いながら、3回の入居募集を積極的に実施した。

8 職員研修

- (1) 昨年度と同様にケアハウス全体で研修委員会を設置し、年間計画を立てて研修担当者による虐待防止・事故防止・感染症対策・大規模災害時の対応等の講義を行い、ケアハウス職員の資質向上を図った。取り急ぎ、職員の意識が他人事から我が事に変容し、自ら研修内容の必要性を理解して、他の職員にも周知徹底したことで相乗効果が得られた。

(2) 桜堤ケアハウス職員全体研修会の実施

開催日	研修内容	参加者数
2/21(火)	桜堤ケアハウス全体研修会 ～大規模災害時における対応と人権擁護から防犯等の具体的な対応策～ ① 大規模災害時における対応 ・職員参集基準（改訂版） ・大地震が発生した時の行動手順 ② 人権擁護・個人情報保護・防犯対策等 ・法令順守 ・人権自己診断～こんな時どうする～ ③ 接遇～電話対応・対応について ・電話対応の良い例と悪い例の職員による実演と説明	15名

9 苦情受付件数 0件

10 人権擁護虐待等受付件数 0件

11 その他

(1) 大規模修繕等の工事について

工事名称	工事期間
1階ピロティ・池の水漏れ水槽修理	R4.8.7
1階ピロティ外灯のLED化	R4.10.13

(2) 新型コロナウイルス感染症に対する対応について

令和2年1月末から東京都並びに武蔵野市などからの新型コロナウイルス感染症情報を踏まえて、コロナウイルス感染症への対応を準備した。ケアハウス入居者やご家族・来館者などに対してお知らせ文を通じての注意喚起や具体的な予防策（マスク着用・手洗い・手指消毒等）の周知徹底、また玄関内にサーマルシステム導入（自動検温機器の設置）、食堂等への飛散防止パネルの設置など感染防止に努めた。しかしながら、8月～9月にかけて複数の入居者が罹患し、相談員が毎日食事を運ぶ際に内服確認や体調観察、居室内の環境整備を行った。陽性者が発生した期間中は嘱託医等の指示のもと、他入居者への感染を防ぐためにも全入居者に居室で過ごしていただくようお願いした。

また、介護サービスを利用されている方についても外部との接触を最小限にするため本人の意向を確認し、必要に応じてケアマネジャーにサービス調整を依頼した。

*入居者へは、引き続き朝夕2回検温し、記録して頂くようお願いしている。

またケアハウスでは不要・不急の外出自粛、行事の中止に伴い、入居者の心身のストレス軽減及び生活不活発化（特に下肢筋力の低下）防止を目的に、生活相談員による脳トレの配布、居室における体操プログラムの紹介、ケアハウス敷地内での園芸活動支援などに取り組んだ。

19 桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター

1 事業運営

武蔵野市の西部地域(桜堤・境・関前)の高齢者総合相談窓口として、地域にお住まいの高齢者やその家族に対して、医療・介護・福祉サービスの情報提供・利用調整や、権利擁護に関する支援など、24時間365日絶え間なく行ってきた(電話受付については、夜間帯はゆとりえへ転送)。また、市役所内にある「基幹型地域包括支援センター」との協力体制を取りながら、地域包括ケアシステム実現・推進に向けて取り組みを行ってきた。あわせて、地域で活動する民間ケアマネジャーに対して、相談・支援等のサポートを行ってきた。も充実させてきた。

地域においては、独居・認知症・身寄りなし等の課題やフレイル予防に対する個別地域ケア会議、エリア別地域ケア会議を開催し、地域住民や関係機関とともに、次年度以降も地域課題を考えていくきっかけづくりを行った。うことができた。

また、当圏域内にある8カ所のいきいきサロンについては、生活支援コーディネーターが中心となって運営の維持・存続に努めた。

外出の機会が減り、自宅で過ごす時間が長くなり、筋力の低下等がみられる地域の高齢者をサポートする目的で、看護師と生活支援コーディネーターが中心になり、家族介護支援教室や老人会、地域のコミセンと共催でフレイル予防の講座を行い、また、地域ケア会議を通じて、テンミリオンハウスきんもくせいとの協力体制も整えた。

2 相談の状況と支援・活動内容

(1) 在宅介護支援センター事業

①延べ相談件数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	311	285	331	291	340	308	276	292	307	306	312	314	3,673

*年々相談は増加傾向

②相談実人数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	265	253	269	253	286	241	241	240	259	263	253	268	3,091

*年々相談は増加傾向

③実態把握

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	133	120	149	123	130	139	106	133	108	105	131	146	1,523

*年々相談は増加傾向

④認定調査件数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	35	27	30	35	38	40	34	35	25	23	30	47	399

*新規同行調査：143件

⑤ケアプラン作成数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
介護(件)	9	0	10	5	4	5	4	4	4	3	2	2	52
予防(件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

*民間ケアマネジャーが対応することがむずかしいケースを中心に担当

(2)地域包括支援センター事業

①虐待防止(虐待対応件数) : 15件 *重複あり

身体的 : 11件	経済的 : 0件	心理的 : 2件	性的 : 0件	介護放棄 : 2件
-----------	----------	----------	---------	-----------

②権利擁護等対応件数 : 80件 *重複あり

成年後見制度関連 : 30件	消費者被害 : 3件	困難事例 : 47件
----------------	------------	------------

③地域連携等件数 : 207件

地域連携会議 : 33件	介護予防啓発 : 4件	他機関との連携 : 170件
--------------	-------------	----------------

④ケアマネ支援件数 : 669件

個別の相談 : 357件	同行訪問 : 276件	担当者会議へ出席 : 36件
--------------	-------------	----------------

*地域包括3職種以外の職員も専門的な相談を受け、随時対応を行っている。

(3)認知症相談

開催日	4/20	7/21	10/19	1/18	合計
件数(件)	1	1	1	3	6

*年4回場所を提供し、職員が相談に立ち会う。

3 地域関連機関や団体との連携

(1)家族介護者教室

開催日	5/25	6/21	7/25	9/30	10/27	12/20	3/23	合計
テーマ	在支・包括の役割について	フレイル予防	エンディング講座	防災について	福祉用具について	認知症について	今年度振り返り	52人
参加人数	6人	8人	5人	7人	6人	12人	8人	
開催場所	サンヴァリエ 桜堤1号棟集会所	サンヴァリエ 桜堤1号棟集会所	サンヴァリエ 桜堤1号棟集会所	サンヴァリエ 桜堤1号棟集会所	サンヴァリエ 桜堤1号棟集会所	サンヴァリエ 桜堤1号棟集会所	サンヴァリエ 桜堤1号棟集会所	

(2)地区別ケース検討会(11回)

開催日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数(人)	20	21	20	20	休会	19	17	21	16	15	12	11	192

*毎月1回開催される、在支・包括が主催するケアマネジャー参加の勉強会。

(3) 地域ケア会議 (エリア別1回・個別3回)

会議種別	エリア別	個 別			合計
開催日	11/10	6/28	7/28	10/26	
参加人数 (人)	10 人	11 人	6 人	7 人	34 人

*毎年エリア別1回、個別3回開催のノルマあり。

(4) 認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座・地域認知症講座

① 認知症サポーター養成講座

開催日	7/14	3/7	合計
参加人数	14 人	24 人	
開催場所	武蔵野プレイス	武蔵野赤十字病院	
参加団体	市民	武蔵野赤十字病院職員	38 人

② ステップアップ講座

開催日	8/26	9/20	11/15	合計
参加人数	12 人	24 人	29 人	
開催場所	商工会館 市民会議室	むさしのプレイ ス 4F	スイングホール 10F	65 人

③ 地域認知症講座

*開催なし

(5) 民生児童委員との定例会 (2回)

開催日	7/26	2/27	合計
参加人数	33 人	24 人	57 人

(6) 地域連携に関わる講座

開催日	7/2	7/22	10/19	10/29	10/31
参加人数	14 人	8 人	14 人	15 人	30 人
テーマ	フレイル予防	エンディング講座	在支・包括の役割	在支・包括の役割	フレイル予防
開催場所	ふるさと歴史館	サンヴァリエ 桜堤中央集会所	桜堤コミセン	サンヴァリエ桜 堤中央集会所	関前コミセン
参加団体	西交会	桜野地区社協	桜寿会	さくら会	長楽会
開催日	11/27		2/8	合計	
参加人数	34 人		32 人	147 人	
テーマ	在支・包括の役割について		フレイル予防		
開催場所	境5丁目都営集会所		西部コミセン		
参加団体	西交会		西部コミセン 桜野地区社協		

*老人会、コミセン、福祉の会をはじめとした地域の団体からの講座依頼あり。

4 支え合いの仕組みづくり・介護予防

(1)いきいきサロン事業（8か所）

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
iki なまちかど保健室	毎週 水曜日 10:00～12:00	健康運動指導士による体操、講座（保健・医療・福祉に関すること等）、ラダー体操、コグニサイズ、手話ソング	H29 年度
マルセサロン	毎週 木曜日 14:00～15:00	体操、ぬり絵、朗読、風船パレー、交流会	H29 年度
五丁目クラブ	毎週 木曜日 13:00～15:00	体操、カラオケ、交流会	H28 年度
どんぐり広場	毎週 金曜日 14:00～16:00	体操、ラダー体操	H30 年度
ルンルンサロン	毎週 土曜日 14:00～16:00	折り紙、書道、絵手紙、健康講座、ちぎり絵	H28 年度
なのはなサロン	毎週 日曜日 10:00～11:30	体操、座ってフラダンス、ボッチャ	H29 年度
サロン式番館	毎週 水曜日 10:00～11:00	体操、ふまねっと、ボッチャ、テーブルゲーム、手話ソング、スリーエー	R1 年度
さわやか	毎週 月曜日 14:00～16:00	体操、交流会、講座（食事学・消費者被害）	R3 年度

*月1回、生活支援コーディネーターがいきいきサロンのモニタリングを実施。また、適宜運営支援等を実施。

(2) いきいき健康 地域プロジェクト

開催日	2/28	合計
参加人数	24 人	24 人
テーマ	フレイル予防について	
開催場所	スイングビル 11F レインボーサロン	
参加団体	サルスクリニック武蔵境、明治安田生命、メディカルフィットネス武蔵境	

*武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センターと共催で実施。

5 職員研修

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数 (件)	0	0	0	3	1	6	8	3	2	1	2	4	30

*研修内容内訳：

ケアマネジャー更新研修・主任ケアマネジャー更新研修・地域ケア会議研修・権利擁護研修・高齢者虐待防止研修・市内在宅介護・地域包括支援センター研修

6 苦情受付件数 0件

7 人権擁護虐待等受付件数 0件

8 その他

現状の考察

①相談は年々増加傾向

- ・市内でも新規相談が突出して多い圏域
- ・医療機関からの退院支援の相談だけではなく、地域のクリニックからの相談も増加傾向
- ・本人、家族が支援拒否のため適切な支援につながらない事例や、頼れる親族が不在で権利擁護に関わる支援が必要など、複合的な課題を抱えた事例が散見。専門職と連携を取りながら、時間をかけた対応が多くなっている。

②慢性的なケアマネジャー不足

- ・事業所の閉鎖、ケアマネジャーの退職が相次ぐ
- ・介護サービスが必要なケースのケアマネジャー探しが難航

※今後限られた地域の関係機関や社会資源などで、地域の方たちにどのような支援体制を構築していけるのか課題となっている。

20 武蔵野市放課後等デイサービスパレット

1 事業運営

当施設は武蔵野市より委託を受け(指定管理)、児童福祉法の放課後等デイサービス事業として運営している。事業対象児は就学児の6歳から18歳で、1日の定員は10名。武蔵野市の方針として、利用要件は主に身体障害児および医療的ケアが必要な児童で、かつ保護者が就労している児童が優先となっている。

今年度は利用者増の取り組みとして、現利用者への利用曜日追加の案内と未利用者への新規利用案内を実施した。曜日追加利用は週1日のみであったが、新規利用者については4月に2名、5月に1名の計3名があった。また、長期休み時のみの利用児を1名新たに受け入れた。

新型コロナウイルス感染症の影響として、安全な受け入れ体制が整わないために1日を臨時休業とした。

2 利用児の状況と活動内容

(1) 年齢別利用児数

(令和5年3月31日現在 単位:人)

	小学低学年生	小学高学年生	中学生	高校生	合計
男児	2	3	0	1	6
女児	4	2	1	0	7
合計	6	5	1	1	13
内、車いす通所	1	1	1	1	4

(2) 通所実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
予定	86	84	105	106	131	96	96	89	100	95	93	118	1,199
実績	80	74	91	90	97	85	76	71	85	79	84	105	1,017
利用率	93.0%	88.1%	86.7%	84.9%	74.0%	88.5%	79.2%	79.8%	85.0%	83.2%	90.3%	89.0%	84.8%
日数	20	19	22	20	22	20	20	19	20	19	19	22	242

(3) 提供時間及び活動内容

【サービス提供時間】

- ・学校終了後：14:30～18:00
- ・学校の休業日及び長期休暇（振り替え休日等・春休み・夏休み・冬休み）：9:30～17:00

【活動内容】

個別支援計画に沿って、遊びや活動を通して、基本的生活動作の練習や社会性の向上などの発達支援を行った。

- ・自立支援と日常生活の充実のための活動として、基本的日常生活動作の獲得や上達のため職員の支援を受けながら自分でできること、支援を受けながら行えることを確認してきた。一人でできた時や協力動作があった時には認めていくことで達成感や自己肯定感が味わえるよ

う配慮している。

- ・創作活動では、自然を感じられる様に積極的に外出する機会を設けた。季節を感じられる様に職員から言葉かけをしたり、散歩中に集めた木の実や木の葉を使用して製作活動を行った。また季節に合わせたイベントを行っている。
- ・地域との交流の機会の提供では、年度の後半には桜堤児童館の職員とやり取りをし、何度か伺わせて頂いた。普段とは違う環境、健常児がいる中で過ごす経験もできた。桜堤ケアハウスという環境の中で、入居者の方から言葉をかけて頂いたり、信陽舎の学生がアルバイトにきたりと関わる機会を設けることができた。普段関わりが少ない方々からの言葉かけにより、利用児もより刺激を受けている。
- ・余暇の提供では、利用児の興味のある遊びを考えて提供してきた。その中で、好きな遊びを友達や職員と行ったり、個人だけでなく複数で活動する時間を設けたりと、興味の幅を広げながら放課後の時間を楽しく過ごせる場になるよう設定して、利用児支援に努めた。

3 地域関連機関や団体との連携

- ・教育委員会と大野田小のスクールバス送迎の調整
- ・送迎ルートの調整を含めた放課後等デイサービスおれんじ学園 nico との打ち合わせ
- ・石神井特別支援学校教員見学
- ・境南保育園にて新規利用児の受け入れのための見学
- ・みどりのこども館通園部ウィズ、相談部ハビットとの応援体制
- ・桜堤児童館利用に向けた情報交換
- ・アルバイト(信陽舎学生4名、武蔵野大学学生1名)

4 職員研修

- (1) 館内研修…桜堤ケアハウス全体研修(災害時対応、人権擁護、個人情報保護法、防犯対策、接遇)
- (2) 法人研修…2、3年目研修、ファシリテーター研修、ハラスメント研修、なごみ職員見学研修、実践発表会、地域生活拠点研修会
- (3) 外部研修…子育て支援ネットワーク、小金井特別支援学校説明会、強度行動障害支援研修、発達障害・知的障害のある子への「感覚への対応」

5 苦情受付件数 0件

6 人権擁護虐待等受付件数 0件

21 特別養護老人ホームゆとりえ

1 事業運営

令和4年度は特別養護老人ホーム(以下、特養ホームという)の利用率は前年度の97.0%から90.9%へ低下。ショートステイを含めた全体の利用率も97.7%から92.6%へ激減した。年間の退所者が11名と例年より多く、さらに重度の待機者の減少などから新入居までに時間がかかったことが大きい。

特養ホームの要介護度状況をみると、要介護5の割合が7割を超え、平均要介護度も令和3年度の4.56から4.66と毎年高くなっている。ショートステイの要介護状況では、要介護4の人が一番多く利用し、平均要介護度は3.68となっている。令和4年度末現在の入所希望待機者は243人となっている。

今年度も新型コロナウイルス感染予防のために直接利用者と接するボランティアや実習生等も中止せざるを得ず、地域との交流や余暇活動、バザー、敬老会や新年会のような家族を交えたイベントも行えなかったため、開かれた施設を維持することは出来なかった。ご家族との面会は、窓越し及びオンライン面会を実施。感染者が減少した11月に窓越し面会を中止し、アクリル板越しの対面面会を再開した。看取り期の利用者に関しては2階での対面面会を実施継続している。コロナ禍で各行事はご家族に参加して頂くことはできなかったが、利用者を楽しんで頂けるよう、形を変えて開催した。

複数名の職員と利用者が新型コロナウイルスに感染したが、発生直後から施設内でゾーニングを行い、感染者を隔離することで幸いにも感染拡大はせず、収束に至った。

2 利用者の状況

利用実績(令和5年3月31日現在)

①利用人数(特養定員30名、ショートステイ2名+空ベッド)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
特養入居者	855	884	874	880	851	792	808	769	789	836	807	811	9,956
ショートステイ	71	66	61	59	96	59	75	78	74	78	65	72	854

②入退所

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
退所(人)	1	0	0	2	1	1	1	2	0	0	1	2	11
うち看取り	1	0	0	1	1	1	1	2	0	0	1	2	10
入所(人)	1	1	1	0	0	1	1	0	1	3	0	2	11

③介護度状況

要介護	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均要介護度
延べ人数(人)	0	0	393	2,560	7,003	9,956	4.66
割合	0	0	4.0%	25.7%	70.3%	100%	
ショートステイ	14	133	220	254	238	854	3.68

④年齢構成（令和5年3月31日現在）

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計	平均年齢
男性	0	1	1	2	0	4	85.8
女性	0	5	8	9	2	24	88.2
合計	0	6	9	11	2	28	87.0

⑤人所希望待機者（令和5年3月31日現在）

要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均要介護度
人所希望人数	1	14	84	82	62	243	3.78
割合	0.4%	5.7%	34.6%	33.7%	25.6%	100%	

3 利用者の支援内容（令和5年3月31日現在）

(1) 排泄介助

自立者	2人	昼夜トイレ介助	7人
昼夜オムツ交換（排便時トイレ介助）	8人	日中トイレ介助・夜間オムツ交換	11人

(2) 食事介助

①摂取状況

自立者	4人	見守り・声掛け・一部介助	16人
経管栄養（胃ろう）	2人	全介助	6人

②食事形態

普通食	1人	刻み	7人
一口大	6人	ペースト・一部ペースト	12人

③補助食品

高栄養ドリンク	0人	トロミ剤使用	17人
高栄養デザート	9人		

(3) 入浴介助

個別浴槽（自立・一部介助等）	1人	個別浴槽（電動リフト使用）	17人
機械浴槽	10人		

(4) 医療・看護ケア（延べ人数）

①医療的ケア

経管栄養（胃瘻）	2人	痰の吸引	2人
バルーンカテーテル（膀胱洗浄）	0人		人

②通院

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院件数（件）	9	7	13	13	6	9	6	10	7	12	11	10	113

救急搬送(件)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

③入院

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入院者数(延)	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	2	2	10

④夜間オンコール件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ドクターメイト	0	0	0	0	2	0	0	/	/	/	/	/	2
ゆとりえ	1	0	0	1	2	0	0	2	1	2	1	0	10
夜間臨時出勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑤歯科診療

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
協力歯科(人)	5	6	6	4	5	4	5	5	0	6	5	6	57
歯科診療(件)	13	12	11	10	10	18	13	6	9	6	3	7	118

4 主な行事

5/1~4	菖蒲湯	5/22	ビアガーデンの会
7/5~7	七夕行事	8/14	盆法要
8/21	スイカ割り	9/18	敬老会
10/20	収穫祭	10/28	ハロウィーンの会
10/31	さつま芋の会	12/12・14	クリスマスリースの会
12/23	クリスマスランチ	12/26~1/7	柚子湯
12月~1月	年末年始	1/17	新年会
2/3	豆まきの会		

* ご家族や外部講師は不参加

* 中止 (ハンカチの木バザー、吉祥寺礼祭、福祉の輪、工作活動、お茶会、近隣学校保育園交流、家族懇談会等)

5 ご家族面会

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
オンライン	2	1	1	1	2	2	1	1	0	1	0	0	12
窓越し	9	9	4	4	4	4	6	/	/	/	/	/	40
対面	10	6	9	19	15	14	15	24	4	12	19	17	164

※看取り対象の入居者については、一定の条件下で対面面会を行っている。

6 スペース開放 (秋桜の会 : 失語症の会 第2土曜日)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数(人)	/	9	9	7	/	/	8	5	6	6	7	4	61

* 中止 (セカンドサンデーゆとりえのつどい、パッチワークの会)

7 職員研修

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内部研修(人)	1	0	0	5	7	40	5	35	0	2	21	0	116
外部研修(人)	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	5

*研修内容内訳：新規採用職員研修、排泄ケア、感染予防、身体拘束、半年後職員研修、2年目職員研修、情報セキュリティ、看取りケア、虐待防止、認知症ケア、中堅層リーダー研修、3年目職員研修、LIFE勉強会、褥瘡防止、ターミナルケア、ハラスメント、認知症介護実践者研修、介護支援専門員研修

8 苦情受付件数 1件

9 人権擁護虐待等受付件数 0件

10 その他

(1) 第三者評価実施

(2) 暮らしの保健室 mini (デイサービス家族介護支援プログラム 2/5 参加)

22 ゆとりえデイサービスセンター

1 事業運営

今年度も新型コロナウイルス感染症の収束がない中、感染対策を実施し、密を避け活動中はひとテーブルに1名を基本として2名以上の場合はパーティション使用、消毒業務継続、活動も昨年同様マイクの使用は避け、お話の会、麻雀等の活動再開は見送った。感染症対策をしながら窓越しに保育園児との交流や手作りの折り紙、カードのプレゼント、午前中に職員と庭や近隣散歩を行い、制限のある中で心身の活性化を図る取り組みを行った。ボランティアの参加は継続して限定的に行った。また、ボランティアの活動再開に向け、お休みしていた方に連絡をとっているが、体調面や高齢化などによりそのままボランティア活動を辞退される方が増えている。今後新たなボランティアの獲得が必要となっている。

日常的に生活相談員が添乗や介護業務に入り、周辺業務と朝の添乗業務の非常勤職員と業務分担の上、昨年同様の感染症対策を行った。

感染症のため1月頃までは利用率が低迷していたが、2月に入り感染が落ち着き始めると徐々に新規問い合わせが増加し、利用率も上昇してきた。また、保育園との直接交流も3月より開始している。利用者の特徴としては、昨年同様医療対応の方は少ないが、介助量の増加や運動機能の低下していないお元気な認知症の方が増え、個別対応が必要な方が多くなっている。

2 デイサービス利用者の状況と支援・活動内容（令和5年3月31日現在の実績数）

(1) 利用実績

① 利用人数（9：00～16：30 定員40名）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ要介護者	467	466	462	436	450	460	454	484	474	420	433	530	5,536
延べ介護予防	7	9	6	7	9	6	9	5	6	4	10	9	87
稼働率(%)	56.4	54.0	53.2	52.7	49.9	53.0	55.1	55.6	57.1	53.0	55.4	58.6	54.5
実人数(人)	59	59	59	56	53	56	58	61	64	58	63	65	

② 介護度別利用延べ人数

要介護	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均要介護度
延べ人数(人)	1,217	2,001	1,337	727	254	5,536	2.42
割合(%)	22	36	24	13	5		
介護予防	要支援1	要支援2	総合事業	合計			
延べ人数(人)	8	79	0	87			
割合(%)	9	91	0				

③ 年齢構成

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計	平均年齢
男性	0	0	5	3	1	9	90.7
女性	0	4	26	28	4	62	88.5
合計	0	4	31	31	5	71	88.8

④入浴利用者数

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ入浴者数	66	70	74	71	75	69	65	78	79	80	72	95	894

⑤給食

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ提供数	474	475	468	443	459	466	463	489	480	424	443	539	5,623

⑥送迎

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ利用数	944	946	921	871	912	922	908	949	925	819	852	1,039	11,008

⑦医療処置

処置内容	延べ人数
在宅酸素	56人

*介護教室、施設ボランティア懇談会、地域ボランティア懇談会は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため未実施

(2) サービス提供内容

①週間スケジュール

曜日	月	火	水	木	金
午前	○健康チェック(血圧、脈拍、顔色など) ○朝のつどい ○口腔体操 ○体操(スクエーン体操、音楽体操) ○うた(木曜日 ボランティア) ○排泄ケア ○入浴<月～金曜日>				
昼食	○食事介助 ○服薬 ○口腔ケア ○排泄ケア				
午後	手芸 アートクラブ カラオケ 移動美容室 個別対応 個別機能訓練	絵手紙 カラオケ 書道 手芸 個別対応	みどりの会 カラオケ 個別対応	書道 カラオケ 個別対応 手芸	コーラス 手芸 唱歌の会 個別対応 個別機能訓練

*カラオケはマイクを使用しない。距離をとるため集まって行うプログラム(麻雀や旅の友)は活動なし。書道のボランティアさんは健康上の理由で休みとなり、2月より自主練習

②主な行事

行事・活動名	期 日	内 容
花見ドライブ	3/23、24	市内の桜の名所を小グループでまわる
長寿を祝う会	9/13～16	楽器演奏やマジックショー、祝膳で楽しむ
新年会	1/11～13	楽器演奏や大道芸、祝膳を楽しむ
コンサート	44回	音楽クラブ22回・うたクラブ22回
近隣学校との交流	随時	近隣保育園窓越し発表・交流(3月のみ直接交流再開)、三中よりお花の鉢

「食」に関する活動	随時	イベント食(10回)
親子広場	中止	乳幼児親子と高齢者との交流プログラム(第2金曜日に開催)
その他		・散髪(中止) ・移動美容室(6回)

3 武蔵野市受託事業 (令和5年3月31日現在の実績数)

(1) 配食 (おせち含む)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数	34	37	42	44	36	32	34	17	16	16	7	8	323食

(2) 会食型食事サービス (ゆとりえキッチン)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施日数(日)	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4	4	5	50
利用者数(人)	2	4	4	2	2	0	1	2	0	2	0	0	19
テイクアウト	30	42	36	45	39	36	19	22	20	12	12	19	332

*テイクアウトはゆとりえ独自サービス

(3) 家族介護支援プログラム (家族懇談会)

①暮らしの保健室 mini (個別、グループによる医療・介護等相談の場)

利用月	4	6	8	10	12	2	合計
参加者数(市民)	5	6	5	5	3	6	30人
相談者者数	2	2	2	2	3	1	12人

*東部福祉の会、吉祥寺東コミュニティ協議会、本宿コミュニティ協議会、市民社協、ゆとりえによる実行委員会で開催。東コミセン、本宿コミセンで交互開催

②ゆとりえオンライン家族介護者グループ相談会

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談者数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	3人

4 地域貢献事業 (令和5年3月31日現在の実績数)

食事の提供

①もったいない食堂ちよこつと応援弁当 (特養・デイ事業)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数	16	16	33	26	19	8	10	9	5	4	10	2	158食

*毎週水曜日昼食テイクアウト弁当 200円 10食限定。武蔵野市子ども・コミュニティ食堂ネットワーク参加事業

②ゆとりえ独自配食 (特養・デイ事業)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数	75	91	79	100	139	146	142	148	144	147	119	136	1,466食

*月曜日～金曜日(祝日あり)昼食テイクアウト弁当 500円。市配食と併せて1日10食限定

5 地域関連機関や団体との連携（令和5年3月31日現在の実績数）

(1) 実習生受入（特養・デイ・支援での延べ人数）

武蔵野第三中職場体験学習	中止	杏林大学・看護学生実習	0人
社会福祉士現場実習	16人	教員介護等体験実習	8人
その他	0人	合計	24人

(2) ボランティア活動

① ボランティア活動実績（特養・デイ共通）

①特別養護老人ホームでの活動			
洗濯物たたみ		362人	
整容		中止	
食事下膳		中止	
余暇活動、他（お茶会、クラブ活動、行事参加、傾聴、歌、他）		中止	小計 362人
②デイサービスセンターでの活動			
フロア活動（配下膳、話し相手等）		332人	
趣味活動等（プログラム活動講師・助手、補助等）		298人	
コンサート、小学生、保育園児、他		13人	小計 643人
③その他の部門での活動			
植栽、庭水まき		60人	
事務連絡会、バザー他		中止	小計 60人
			合計 1,065人

*ハンカチの木バザーは中止

② ボランティアポイント（ポイント数）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
シニア支え合い	4	5	6	6	8	12	12	8	6	0	2	3	72
ゆとりえポイント	55	51	45	46	53	51	44	49	47	54	50	55	600

*シニア支え合いポイントは市の受託事業。ゆとりえボランティアポイントは独自サービス

5 職員研修（令和5年3月31日現在の実績数）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加件数（件）	0	0	0	1	0	0	0	0	5	1	2	0	9

*研修内容内訳：認知症研修、デイ情報交換会、ハラスメント研修、地域生活支援拠点研修（権利擁護・虐待防止研修（すべてZOOM・動画配信）

6 苦情受付件数 0件

7 人権擁護虐待等受付件数 0件

23 ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター

1 事業運営

武蔵野市の東部地域(吉祥寺南町・吉祥寺東町・御殿山1丁目)の高齢者総合相談窓口として、各種介護支援サービスの情報提供・総合調整、権利擁護、地域支援等の高齢者福祉サービスの事業を24時間365日行った。

住民主体のさまざまな支え合いづくりや地域づくりへの取り組みを、生活支援コーディネーターはじめ職員が一丸となって取り組んできた。新型コロナウイルス感染症の流行により外出の機会が減少したことで、心身機能の低下が進み、大きな課題となっている。今年度は介護予防、地域のネットワークづくりに目標を置き、活動を行った。個別地域ケア会議、エリア別地域ケア会議で、地域とのネットワークを強化するため地域住民を含めた見守り体制を構築した。

介護予防の取り組みでは、ゆとりえラジオ体操、宮本小路公園での公園ラジオ体操が定例化し、多くの地域住民が参加した。更に御殿山の吉祥寺教会の中庭で昨年10月より新たに開催するなど、ゆとりえの圏域で延べ484人の地域住民が参加され、身体的、社会的フレイルの予防につながった。ラジオ体操の取り組みは他の在宅介護・地域包括支援センターの活動にも波及し、全市的に開催場所が増えたのは大きな成果であった。

また、南町福祉の会と共催の認知症カフェ「カフェ君の名は」は、新型コロナウイルスの感染拡大により開催回数が減少していたが、5回の対面での開催が叶い、延べ94人が参加した。認知症に対する取り組みはカフェの他、地域認知症講座や地域連携にかかわる講座を多数開催した。

個別相談支援の特徴としては、昨年度に続き精神疾患を抱える家族や家族介護力の不足により生活の限界点を迎える高齢者など、世帯全体を多職種と連携して支援する必要がある困難なケースが増加した。一方で、コロナ禍において軽度者の新規申請も増加した。

2 相談の状況と支援・活動内容(令和5年3月31日現在の実績数)

(1)相談実績

①延べ相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	189	222	275	226	294	267	246	262	222	226	250	240	2,919

②相談実人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数(人)	164	191	237	198	247	228	216	224	196	186	203	270	2,560

③実態把握件数(訪問+支援方針会議)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	108	117	147	127	142	143	133	141	120	110	144	144	1,606

④認定調査件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
更新調査件数	34	32	38	47	43	48	48	48	44	24	40	45	491
新規同行件数	2	1	1	2	2	3	2	3	2	2	1	1	22

⑤ケアプラン作成数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
介護給付(件)	6	6	7	6	8	8	8	9	12	13	12	9	104
総合事業(件)	6	5	5	4	3	3	3	2	2	2	2	2	39

(2)地域包括支援センター事業の報告

①虐待防止(虐待対応件数) : 7件 *重複あり

身体的:6件	経済的:0件	心理的:2件	性的:0件	介護放棄 0件
--------	--------	--------	-------	---------

②権利擁護等対応件数: 34件 *重複あり

成年後見制度関連:10件	消費者被害:3件	困難事例:26件
--------------	----------	----------

③地域連携等件数 : 333件

地域連携会議:81件	介護予防啓発:111件	他機関との連携:141件
------------	-------------	--------------

④ケアマネ支援件数 : 106件

個別の相談:52件	同行訪問:25件	担当者会議へ出席:29件
-----------	----------	--------------

*地域包括3職種以外の職員も専門的な相談を受け、随時対応を行っている

(3)認知症相談

開催日	5/11	8/3	11/2	2/1	合計
件数(件)	3件	4件	4件	4件	15件

*電話相談は6件、9件は対面で行った。年4回場所を提供し、職員が相談に立ち会う

3 地域関連機関や団体との連携(令和5年3月31日現在の実績数)

(1)家族介護教室

①ほほえみサロン

開催日	7/19	10/21	2/24	合計
テーマ	フレイル予防	認知症予防	セルフケア	
開催場所	本宿コミセン	南町コミセン	東町コミセン	
参加人数	8人	18人	8人	

②認知症カフェ(カフェ君の名は)

開催日	5/28	7/23	9/24	11/26	1/28	3/25	合計
参加人数(人)	中止	13人	20人	22人	24人	15人	94人

*ゆとりエデイルームにて南町福祉の会と共催

(2)地区別ケース検討会(11回)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数(人)	20	21	17	21	休会	21	19	21	20	19	20	22	221人

*毎月1回開催される、在支・包括が主催するケアマネジャー参加の勉強会

(3)地域ケア会議(エリア別1回・個別3回)

	エリア別	個別			合計
開催日	11/28	9/7	10/24	1/24	
参加人数(人)	20人	8人	10人	7人	45人

(4) 認知症講座

①認知症サポーター養成講座

開催日	8/31	合計
開催場所	武蔵野商工会館	
参加団体	一般市民	
参加人数	20人	20人

②認知症ステップアップ講座

開催日	8/26	9/20	11/15	合計
開催場所	武蔵野商工会館 (ZOOM)	武蔵野プレイス	レインボーサロン	
参加人数	12人	20人	20人	52人

③地域認知症講座

開催日	10/21	2/25	合計
開催場所	南町コミセン(ほほえみサロン)	御殿山コミセン	
参加人数	18人	24人	42人

(5) 民生児童委員との定例会 (2回)

開催日	7/26 (1回目)	2/27 (2回目)	合計
人数	16人	20人	36人

(6) 地域連携に関わる講座

開催日	7/27	9/21	9/28	2/21	3/10	合計
開催場所	ルネ吉祥寺	本宿コミセン	ルネ吉祥寺	ルネ吉祥寺	武蔵野公会堂	
参加団体	マンション・地域住民	本田北クラブ	マンション・地域住民	マンション・地域住民	老人クラブ吉祥寺地区会員	
テーマ	介護保険制度	認知症の理解と対応	みんなで知ろう認知症	転倒予防体操と脳トレ	認知症の理解と対応	
参加人数	11人	23人	10人	10人	105人	

4 支え合いの仕組みづくり・介護予防 (令和5年3月31日現在の実績数)

(1) いきいきサロン事業 (2か所)

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
吉祥寺ささえあいビレッジ	毎週金曜日 10:00~11:30	体操、うた、トーンチャイム、ハンドベル、手話ソング	H27年度
公園口サロン	毎週火曜日 9:30~12:30	体操、卓球	H27年度

*月1回、生活支援コーディネーターがモニタリングを実施。また、適宜運営支援等を実施

(2) ラジオ体操

①ゆとりえラジオ体操

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
第1回	10	11	10	17	9	9	7	12	0	9	11	13	118人
第2回	12	16	14	15	11	14	12	12	0	7	0	6	119人
参加人数合計	22	27	24	32	20	23	19	24	0	16	11	19	237人

*ゆとりえ中庭にて第2火曜日と第4木曜日に開催。(祝日は休み、雨天中止)

②公園ラジオ体操

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
宮本小路公園	21	0	26	21	13	9	0	17	8	12	0	13	140人

*宮本小路公園にて第2金曜日に開催。本町在宅介護・地域包括支援センターと共催

③御殿山ラジオ体操

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
第1回	/	/	/	/	/	/	0	9	10	14	10	8	51人
第2回	/	/	/	/	/	/	12	10	8	11	9	6	56人
参加人数合計	/	/	/	/	/	/	12	19	18	25	19	14	107人

*10月より、御殿山吉祥寺教会の中庭にて第1、第3金曜日に開催。

(4)いきいき健康地域プロジェクト 楽しく！元気に！長生き！（圏域事業）

日付	2/17											合計
開催場所	メガロス吉祥寺											
参加団体	メガロス吉祥寺、武蔵野市健康課、ゆとりえ											
テーマ	フレイル予防（栄養と運動）											
参加人数	AM16人 PM10人											26人

5 職員研修（令和5年3月31日現在）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加件数(件)	0	0	1	3	1	1	4	3	5	4	3	3	28件

*研修内容内訳：地域包括職員向け・ケアマネジャー更新・認知症コーディネーター関連・生活支援コーディネーター関連・権利擁護・高齢者虐待防止・市内在宅介護・地域包括支援センター対応力向上など

6 苦情受付件数 1件

7 人権擁護虐待等受付件数 0件

8 その他（今後の課題）

- (1)今年度介護予防の取り組みとして広げた「ラジオ体操」だが、ゆとりえ主導から地域に移行するため、担い手を発掘、育成すること。
- (2)コロナ感染症が5類に移行した後、飲食や発声を伴う活動を感染拡大防止に配慮しながら、どのように集いの場を再開するか。
- (3)多問題を抱える世帯の支援が増え、迅速かつ多職種の連携が必要な相談に、連携がスムーズに行えない困難な現状にどのように対応していくか。

24 RENG A収益事業

1 事業運営について

令和2年度末で、重度身体障害者グループホームRENG Aをグループホームの再編により事業転換し、令和3年11月より収益事業を開始した。市内の社会福祉法人に建物を貸すことで、木造2階のレンガ作り風の建物はこれまで通り福祉事業を継続し、地域福祉に寄与することとした。

令和4年7月に安全のため腐食した2階ベランダの修復工事等を行った。
得られた収益は、将来の修繕等にかかる費用に充てるため、修繕費積立金として積み立てた。

2 事業概要

- | | | |
|------------|---|--|
| (1) 建物概要 | 建物名称 | RENG A |
| | 所在地 | 武蔵野市八幡町3-3-26 |
| | 構造 | 木造2階建て |
| | 床面積 | 284.76㎡ |
| (2) 事業内容 | 1階 | 放課後等デイサービス事業 10名（定員／1日）
（第2種社会福祉事業） |
| | 2階 | ガイドヘルパー派遣事業（移動支援、同行援護）
（第2種社会福祉事業） |
| (3) 賃貸期間 | 令和3年11月1日～2年間（更新あり） | |
| (4) 賃借料 | 550,000円（月額） | |
| (5) 賃借人 | 社会福祉法人おおぞら会 | |
| (6) 事業サポート | ① 定期的な設備メンテナンス（電気設備点検、消防設備点検）
② 修繕工事等の実施（2階ベランダ修復工事、1階テラス修復工事、1階トイレクロス張替工事、樹木伐採、外構清掃）
③ 近隣住民等と良好な関係が築けるようサポート | |



RENG A外観